

0001

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：基礎

2進数 10110110 を16進数で表したものはどれか。

ア：B5

イ：B6

ウ：D6

エ：A6

答え・解説

正答：イ

ア：下位4ビット0110 は5ではなく6である。

イ：1011 =B 、0110 =6 なので B6 となる。

ウ：上位4ビット1011 はDではなくBである。

エ：上位4ビット1011 をA とするのは誤りで、1011 はB である。

総合解説：1011 =B 、0110 =6 なので B6 となる。学習上は「2進数と16進数の対応を変換できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0002

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：基礎

論理式 NOT(A AND B) と等価なものはどれか。

ア：A AND B

イ：(NOT A) AND (NOT B)

ウ：A OR B

エ：(NOT A) OR (NOT B)

答え・解説

正答：エ

ア：元のAND式そのものであり、否定が反映されていない。

イ：これはNOT(A OR B)と等価であり、NOT(A AND B)ではない。

ウ：AとBのいずれかが真なら真となり、元の式とは一致しない。

エ：ド・モルガンの法則により、積の否定は各項の否定の和に等しい。

総合解説：ド・モルガンの法則により、積の否定は各項の否定の和に等しい。学習上は「論理式にド・モルガンの法則を適用できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0003

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：標準

独立な装置Aと装置Bがあり、1時間以内に故障する確率がそれぞれ0.10、0.20である。1時間以内に少なくとも一方が故障する確率はどれか。

- ア：0.02（両方が故障する確率をそのまま用いる）
- イ：0.28（両方とも正常である確率の補集合を用いる）
- ウ：0.30（各装置の故障確率を単純に加算する）
- エ：0.72（両方とも故障しない確率を答える）

答え・解説

正答：イ

ア：0.10×0.20は両方が故障する確率であり、少なくとも一方の故障ではない。

イ：両方とも故障しない確率は0.90×0.80=0.72なので、少なくとも一方が故障する確率は1 - 0.72=0.28である。

ウ：0.10+0.20と単純加算すると、両方が故障する事象0.02を二重計上する。

エ：これは両方とも故障しない確率である。

総合解説：両方とも故障しない確率は0.90×0.80=0.72なので、少なくとも一方が故障する確率は1 - 0.72=0.28である。学習上は「独立事象の確率を計算できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0004

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：基礎

処理要求を到着順に公平に処理するため、先に到着した要求を先に取り出したい。最も適切なデータ構造はどれか。

- ア：二分探索木
- イ：ハッシュ表
- ウ：キュー
- エ：スタック

答え・解説

正答：ウ

ア：探索には有用だが、到着順をそのまま保証する構造ではない。

イ：キーによる高速検索に向くが、挿入順の処理を目的とする構造ではない。

ウ：キューはFIFO（First In, First Out）であり、到着順に取り出す用途に適する。

エ：スタックはLIFOで、最後に入れた要素を最初に取り出す。

総合解説：キューはFIFO（First In, First Out）であり、到着順に取り出す用途に適する。学習上は「スタックとキューの動作差を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0005

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：標準

昇順に整列済みの n 個の要素から、二分探索で目的の値を探す場合の平均的・最悪時の比較回数のオーダーとして最も適切なものはどれか。

ア： $O(n \log n)$ イ： $O(\log n)$ ウ： $O(1)$ エ： $O(n)$

答え・解説

正答：イ

ア：比較ソートなどで現れる代表的なオーダーであり、二分探索の探索回数ではない。

イ：探索範囲を比較のたびにほぼ半分に絞るため、比較回数は対数オーダーとなる。

ウ：要素数に依存せず一定時間で探せるわけではない。

エ：線形探索の代表的なオーダーであり、二分探索より大きい。

総合解説：探索範囲を比較のたびにほぼ半分に絞るため、比較回数は対数オーダーとなる。学習上は「二分探索の計算量を判断できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0006

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：標準

全ての辺の重みが0以上であるグラフについて、1つの始点から各頂点への最短距離を求めたい。代表的なアルゴリズムとして最も適切なものはどれか。

ア：深さ優先探索

イ：クイックソート

ウ：ダイクストラ法

エ：二分探索

答え・解説

正答：ウ

ア：到達可能性の探索には使えるが、重み付き最短距離を一般に保証しない。

イ：配列などの整列アルゴリズムであり、最短経路計算ではない。

ウ：非負の重みを持つグラフで単一始点最短経路を求める代表的手法である。

エ：整列済みデータから値を探索する手法であり、グラフ最短経路には使わない。

総合解説：非負の重みを持つグラフで単一始点最短経路を求める代表的手法である。学習上は「グラフ上の最短経路問題に適切なアルゴリズムを選べる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0007

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：標準

ハッシュ表で異なる2つのキーから同じハッシュ値が得られた。この事象と、その代表的な対処の組合せとして最も適切なものはどれか。

ア：デッドロックであり、資源の解放順序で対処する

イ：衝突であり、チェイン法やオープンアドレス法で対処する

ウ：ページフォールトであり、ページ置換で対処する

エ：桁あふれであり、多倍長整数で対処する

答え・解説

正答：イ

ア：デッドロックは並行処理で資源待ちが循環する問題で、ハッシュ表の衝突とは無関係である。
イ：異なるキーが同じ格納位置に対応することを衝突と呼び、複数の解決法がある。
ウ：ページフォールトは仮想記憶上の事象であり、ハッシュ表の衝突とは異なる。
エ：ハッシュ値の一致は整数演算の桁あふれとは別の現象である。

総合解説：異なるキーが同じ格納位置に対応することを衝突と呼び、複数の解決法がある。学習上は「ハッシュ法における衝突と対策を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0008

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：応用

正の整数 n に対して $f(n)=n \times f(n-1)$ を計算し、 $f(1)=1$ とする再帰関数を実装した。実装上、最も重要な条件はどれか。

ア： $n=1$ のとき再帰呼出しを行わず1を返す基底条件を置く

イ：再帰呼出しのたびに新しいスレッドを生成する

ウ：各呼出しで n を1ずつ増やす

エ：戻り値を常に0に初期化する

答え・解説

正答：ア

ア：基底条件がなければ再帰が停止せず、スタックを消費し続ける。
イ：再帰の正しさに不要で、むしろ資源消費を増やす。
ウ：基底条件から遠ざかるため停止しにくくなる。
エ：階乗計算の結果を壊し、再帰の停止条件にもならない。

総合解説：基底条件がなければ再帰が停止せず、スタックを消費し続ける。学習上は「再帰処理の停止条件の重要性を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0009

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：応用

単一窓口の待ち行列で、到着率がサービス率に近づいて利用率が1に近づくとき、一般に待ち時間はどうなるか。

ア：急激に増大しやすい

イ：必ず0に近づく

ウ：サービス率に関係なく一定である

エ：到着率が高いほど必ず短くなる

答え・解説

正答：ア

ア：処理能力の余裕が小さくなると待ち行列が解消されにくくなり、待ち時間が大きくなる。

イ：利用率が高いほど待ちがなくなるわけではなく、逆に滞留しやすい。

ウ：待ち時間は到着率とサービス率の関係に依存する。

エ：到着率上昇は混雑を増やす方向に働く。

総合解説：処理能力の余裕が小さくなると待ち行列が解消されにくくなり、待ち時間が大きくなる。学習上は「待ち行列の利用率と遅延の関係を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0010

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：標準

安定な整列アルゴリズムの説明として最も適切なものはどれか。

ア：追加記憶領域を一切使用しない

イ：比較を一度も行わずに整列する

ウ：キーが等しい要素同士の元の相対順序を保つ

エ：どの入力に対しても必ず $O(n)$ で完了する

答え・解説

正答：ウ

ア：安定性とin-place性は別の性質である。

イ：安定性は比較回数の有無を定義する概念ではない。

ウ：安定ソートは同一キーの要素の相対順序を維持する。

エ：安定性は計算量の保証を意味しない。

総合解説：安定ソートは同一キーの要素の相対順序を維持する。学習上は「ソートの安定性の意味を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0011

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > ハードウェア・OS・システム構成 | 難易度：標準

キャッシュのアクセス時間が10ns、主記憶のアクセス時間が100ns、キャッシュヒット率が90%である。ミス時はキャッシュ確認後に主記憶へアクセスするとき、平均アクセス時間はどれか。

- ア：110ns（毎回キャッシュと主記憶の両方へアクセスするとみなす）
イ：19ns（ミス時のキャッシュ確認時間を含めない）
ウ：100ns（ヒット率を考慮せず主記憶時間だけを用いる）
エ：20ns（ヒット時とミス時を重み付けして求める）

答え・解説

正答：エ

ア：全アクセスが必ずキャッシュと主記憶の両方を通るとした値である。

イ：ミス時のキャッシュ確認10nsを含めず $0.9 \times 10 + 0.1 \times 100$ とした値である。

ウ：ヒット率を考慮せず主記憶時間だけを用いている。

エ： $0.9 \times 10 + 0.1 \times (10 + 100) = 9 + 11 = 20\text{ns}$ である。

総合解説： $0.9 \times 10 + 0.1 \times (10 + 100) = 9 + 11 = 20\text{ns}$ である。学習上は「キャッシュメモリの平均アクセス時間を計算できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0012

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > ハードウェア・OS・システム構成 | 難易度：基礎

仮想記憶方式におけるページフォールトの説明として最も適切なものはどれか。

- ア：参照したページが主記憶上にないため、補助記憶から読み込む必要が生じること
イ：CPUキャッシュに命令が存在しないこと
ウ：ネットワークパケットの順序が入れ替わること
エ：ファイルのアクセス権が不足すること

答え・解説

正答：ア

ア：必要ページが主記憶に存在しないとき、OSがページインなどの処理を行う。

イ：CPUキャッシュミスとページフォールトは異なる。

ウ：通信の順序問題であり、仮想記憶とは無関係である。

エ：アクセス権エラーは保護機構の問題であり、ページフォールトの定義ではない。

総合解説：必要ページが主記憶に存在しないとき、OSがページインなどの処理を行う。学習上は「仮想記憶のページフォールトを説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0013

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > ハードウェア・OS・システム構成 | 難易度：基礎

OSのCPUスケジューリングで、各実行可能プロセスに一定の時間片を順番に割り当てる方式はどれか。

- ア：最短ジョブ優先方式
- イ：ラウンドロビン方式
- ウ：優先度方式
- エ：先着順方式

答え・解説

正答：イ

- ア：予測実行時間が短いジョブを優先する方式である。
- イ：一定のタイムクォンタムを各プロセスへ循環的に割り当てる方式である。
- ウ：設定された優先度に基づき実行順を決める方式である。
- エ：到着順に実行するが、一定時間片で循環させる方式ではない。

総合解説：一定のタイムクォンタムを各プロセスへ循環的に割り当てる方式である。学習上は「ラウンドロビン方式の特徴を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0014

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > ハードウェア・OS・システム構成 | 難易度：標準

複数プロセスのデッドロックが成立するための条件として、一般的な必要条件に含まれないものはどれか。

- ア：資源待ちの循環が存在すること
- イ：資源が排他的に使用されること
- ウ：全プロセスが同一優先度であること
- エ：資源を保持したまま別資源を待つこと

答え・解説

正答：ウ

- ア：循環待ちは代表的な必要条件である。
- イ：相互排除はデッドロックの代表的な必要条件の一つである。
- ウ：プロセス優先度の一致はデッドロックの必要条件ではない。
- エ：保持かつ待ちも代表的な必要条件である。

総合解説：プロセス優先度の一致はデッドロックの必要条件ではない。学習上は「デッドロック成立条件を識別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0015

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > ハードウェア・OS・システム構成 | 難易度：標準

同容量のディスク4台でRAID5を構成した。パリティによる冗長化を行う場合、利用可能容量の概算として最も適切なものはどれか。

- ア：ディスク1台分（3台分を冗長化領域とみなす）
- イ：ディスク2台分（2台分を冗長化領域とみなす）
- ウ：ディスク4台分（パリティ領域を考慮しない）
- エ：ディスク3台分（実質1台分を分散パリティに用いる）

答え・解説

正答：エ

ア：これは冗長化方式を過大に見積もっている。

イ：4台RAID5の通常の実効容量ではない。

ウ：パリティ領域が必要なので全容量をデータには使えない。

エ：RAID5では分散パリティに実質1台分を使用するため、n台構成の実効容量は概ね $(n - 1)$ 台分となる。

総合解説：RAID5では分散パリティに実質1台分を使用するため、n台構成の実効容量は概ね $(n - 1)$ 台分となる。学習上は「RAID方式の冗長性と容量特性を判断できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0016

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > ハードウェア・OS・システム構成 | 難易度：基礎

DMA (Direct Memory Access) の主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア：命令を複数CPUへ自動分散する
- イ：CPUの逐次介入を減らし、入出力装置と主記憶の間でデータ転送する
- ウ：仮想アドレスを物理アドレスに変換する
- エ：主記憶を暗号化して機密性を確保する

答え・解説

正答：イ

ア：これは並列処理やスケジューリングの役割である。

イ：DMAコントローラなどが転送を担い、CPU負荷を軽減できる。

ウ：アドレス変換はMMU等の役割である。

エ：DMAは暗号機能そのものではない。

総合解説：DMAコントローラなどが転送を担い、CPU負荷を軽減できる。学習上は「DMAの目的を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0017

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > ハードウェア・OS・システム構成 | 難易度：標準

入出力装置が処理完了をCPUへ通知し、CPUが通常処理を一時中断して対応する仕組みとして最も適切なものはどれか。

ア：スプーリング

イ：ポーリングのみ

ウ：割込み

エ：ページング

答え・解説

正答：ウ

ア：低速な入出力処理を補助記憶に一時蓄積する方式である。

イ：ポーリングはCPUが状態を繰り返し確認する方式で、装置からの割込み通知とは異なる。

ウ：外部装置や例外などの事象を契機に通常処理を中断し、割込み処理へ制御を移す。

エ：仮想記憶の管理方式である。

総合解説：外部装置や例外などの事象を契機に通常処理を中断し、割込み処理へ制御を移す。学習上は「割込み処理の役割を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0018

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > ハードウェア・OS・システム構成 | 難易度：応用

端末側に業務データをできるだけ保持せず、アプリケーション実行やデータ管理をサーバ側へ集中したい。最も適する構成はどれか。

ア：P2Pシステム

イ：スタンドアロンシステム

ウ：密結合マルチプロセッサ

エ：シンククライアントシステム

答え・解説

正答：エ

ア：各ノードが対等に資源を提供し合うため、端末への集中回避という要件と合わない。

イ：端末自身で処理・データ管理するため要件と逆である。

ウ：CPU構成の方式であり、端末データ非保持の要件を直接満たすものではない。

エ：端末機能を限定し、処理やデータをサーバ側に集中させる構成である。

総合解説：端末機能を限定し、処理やデータをサーバ側に集中させる構成である。学習上は「シンククライアントの特徴を判断できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0019

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > ハードウェア・OS・システム構成 | 難易度：標準

一般的なOSにおける同一プロセス内の複数スレッドについて、最も適切な説明はどれか。

ア：スレッド間ではデータを一切共有できない

イ：スレッドはOSから見て実行単位にならない

ウ：各スレッドは必ず別の仮想アドレス空間を持つ

エ：同一プロセスのアドレス空間などを共有しつつ、独立した実行単位としてスケジューラされる

答え・解説

正答：エ

ア：共有メモリを介してデータを共有できるため誤りである。

イ：一般にスケジューリング対象となる実行単位である。

ウ：別プロセスに近い説明であり、同一プロセス内スレッドは通常アドレス空間を共有する。

エ：スレッドはプロセス資源を共有する軽量な実行単位として扱われる。

総合解説：スレッドはプロセス資源を共有する軽量な実行単位として扱われる。学習上は「プロセスとスレッドの資源共有の違いを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0020

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > ハードウェア・OS・システム構成 | 難易度：応用

多数のプロセスを同時実行したところ、ページフォールトが頻発し、CPU使用率よりもディスクI/Oが増えて処理性能が大幅に低下した。この現象として最も適切なものはどれか。

ア：スプーリング

イ：デッドロック

ウ：スラッシング

エ：フラグメンテーション

答え・解説

正答：ウ

ア：入出力を補助記憶へ一時蓄積する方式であり、性能劣化現象の名称ではない。

イ：資源待ちが循環して進行不能になる現象で、ページ入替え頻発とは異なる。

ウ：実行に必要なページが主記憶に収まらずページ入替えが過度に発生する現象である。

エ：記憶領域の断片化であり、記述されたページフォールト頻発の代表名称ではない。

総合解説：実行に必要なページが主記憶に収まらずページ入替えが過度に発生する現象である。学習上は「仮想記憶のスラッシングを説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0021

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 性能・信頼性・システム方式 | 難易度：基礎

あるシステムのMTBFが990時間、MTTRが10時間である。定常状態の稼働率として最も近いものはどれか。

ア：99% ($MTBF \div (MTBF + MTTR)$ で求める)
イ：1% ($MTTR \div (MTBF + MTTR)$ を稼働率とみなす)
ウ：90% (MTBFとMTTRの比を概算する)
エ：100% (修復時間を無視する)

答え・解説

正答：ア

ア：稼働率 $= MTBF / (MTBF + MTTR) = 990 / 1000 = 0.99$ である。
イ： $MTTR / (MTBF + MTTR)$ であり、不稼働率に相当する。
ウ：MTBFとMTTRからの計算結果ではない。
エ：修復時間が0ではないため100%にはならない。

総合解説：稼働率 $= MTBF / (MTBF + MTTR) = 990 / 1000 = 0.99$ である。学習上は「MTBFとMTTRから稼働率を計算できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0022

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 性能・信頼性・システム方式 | 難易度：標準

独立に故障する2つの装置A、Bが直列に構成され、両方が正常なときだけシステムが稼働する。Aの信頼度0.99、Bの信頼度0.98のとき、システム信頼度はどれか。

ア：0.9850 (2装置の信頼度を単純平均する)
イ：0.0102 (故障確率の扱いを取り違える)
ウ：0.9998 (並列系のように補集合を用いる)
エ：0.9702 (直列系として 0.99×0.98 を求める)

答え・解説

正答：エ

ア：単純平均は直列系信頼度の計算方法ではない。
イ：故障確率の扱いを誤っている。
ウ：並列系に近い計算であり、直列系ではない。
エ：直列系では全要素が正常である必要があるので $0.99 \times 0.98 = 0.9702$ である。

総合解説：直列系では全要素が正常である必要があるので $0.99 \times 0.98 = 0.9702$ である。学習上は「直列システムの信頼度を計算できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0023

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 性能・信頼性・システム方式 | 難易度：標準

信頼度0.90の同一装置2台を並列に配置し、少なくとも1台が正常ならシステムが稼働する。独立故障とするとシステム信頼度はどれか。

ア：1.80（2台の信頼度を単純加算する）
イ：0.81（2台とも正常である確率だけを求める）
ウ：0.99（2台とも故障する確率の補集合を求める）
エ：0.90（冗長化前の1台分の信頼度を用いる）

答え・解説

正答：ウ

ア：確率は1を超えないため不適切である。
イ： 0.9×0.9 は両方が正常な確率であり、少なくとも1台正常という条件より厳しい。
ウ：両方が故障する確率は $0.1 \times 0.1 = 0.01$ なので、少なくとも1台正常の確率は $1 - 0.01 = 0.99$ である。
エ：冗長化による信頼度向上を反映していない。

総合解説：両方が故障する確率は $0.1 \times 0.1 = 0.01$ なので、少なくとも1台正常の確率は $1 - 0.01 = 0.99$ である。学習上は「並列冗長システムの信頼度を計算できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0024

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 性能・信頼性・システム方式 | 難易度：基礎

システムが単位時間あたりに処理できるジョブ数を表す指標はどれか。

ア：レスポンスタイム
イ：スループット
ウ：MTTR
エ：RPO

答え・解説

正答：イ

ア：要求を出してから応答が得られるまでの時間を示す。
イ：単位時間あたりの処理件数・仕事量を示す性能指標である。
ウ：故障から修復までの平均時間である。
エ：災害時に許容できるデータ損失時点の目標である。

総合解説：単位時間あたりの処理件数・仕事量を示す性能指標である。学習上は「スループットとレスポンスタイムを区別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0025

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 性能・信頼性・システム方式 | 難易度：標準

今後1年間の利用者増加を見込み、CPU・メモリ・ストレージ・回線容量が将来の負荷に耐えられるかを予測して増強時期を決める活動として最も適切なものはどれか。

ア：キャパシティプランニング
イ：インシデント管理
ウ：コードレビュー
エ：構成管理

答え・解説

正答：ア

ア：需要予測と性能・容量の測定を基に必要資源を計画する活動である。
イ：発生したサービス中断等の迅速な復旧が中心である。
ウ：ソースコードの欠陥発見や品質向上が目的である。
エ：構成目録や版、変更状態を管理する活動であり、将来容量予測が主目的ではない。

総合解説：需要予測と性能・容量の測定を基に必要資源を計画する活動である。学習上は「キャパシティプランニングの目的を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0026

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 性能・信頼性・システム方式 | 難易度：標準

複数のWebサーバへ要求を振り分けるロードバランサを導入する主な狙いとして最も適切なものはどれか。

ア：全ての障害を検知せず無視する
イ：DBの正規化を自動的に行う
ウ：暗号鍵を必ず安全に保管する
エ：処理負荷を分散し、性能や可用性の向上を図る

答え・解説

正答：エ

ア：可用性向上には障害検知や健全なノードへの振分けが重要で、無視するものではない。
イ：負荷分散装置はデータモデルを正規化しない。
ウ：鍵管理は別のセキュリティ機構である。
エ：複数サーバへ要求を配分することで、単一サーバへの集中を避けられる。

総合解説：複数サーバへ要求を配分することで、単一サーバへの集中を避けられる。学習上は「負荷分散の効果と限界を判断できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0027

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 性能・信頼性・システム方式 | 難易度：基礎

障害発生時の切替時間を短くするため、待機系を起動済み・同期済みの状態で維持する方式として最も適切なものはどれか。

ア：ホットスタンバイ
イ：コールドスタンバイ
ウ：バッチ処理
エ：タイムシェアリング

答え・解説

正答：ア

ア：待機系を即時に近い形で利用できる状態に保ち、切替時間を短縮する。
イ：待機系を停止状態などで保つため、一般に切替準備に時間がかかる。
ウ：処理形態の名称であり、待機系の冗長化方式ではない。
エ：CPU時間を利用者・処理で共有する方式であり、待機系の方式ではない。

総合解説：待機系を即時に近い形で利用できる状態に保ち、切替時間を短縮する。学習上は「ホットスタンバイとコールドスタンバイの違いを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0028

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 性能・信頼性・システム方式 | 難易度：応用

処理時間の80%を完全に並列化でき、残り20%は並列化できない処理がある。並列部分を無限に高速化できたとしても、全体の最大速度向上比はどれか。

ア：4倍（並列化率80%を単純換算する）
イ：5倍（残る直列部分20%から上限を求める）
ウ：無限大（並列部分の高速化だけを考える）
エ：1.25倍（並列化率80%の逆数だけを用いる）

答え・解説

正答：イ

ア：並列化率80%を単純に4倍とみなしている。
イ：並列部分の時間が0に近づいても20%は残るので、最大速度向上比は $1/0.20=5$ 倍である。
ウ：直列部分20%が残るため全体速度は無限にはならない。
エ：80%部分だけを逆数にした値であり、全体の上限ではない。

総合解説：並列部分の時間が0に近づいても20%は残るので、最大速度向上比は $1/0.20=5$ 倍である。学習上は「Amdahlの法則を用いて性能向上の上限を考えられる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0029

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 性能・信頼性・システム方式 | 難易度：標準

Web層の処理能力を高めるため、同等サーバを複数台追加しロードバランサで分散する方式はどれか。

- ア：デフラグ
- イ：スケールアウト
- ウ：スケールアップ
- エ：フェイルバック

答え・解説

正答：イ

- ア：記憶領域の断片化を整理する処理である。
- イ：サーバ台数を増やして水平に処理能力を拡張する方式である。
- ウ：1台のCPUやメモリなどを強化する垂直拡張である。
- エ：障害復旧後に主系へ処理を戻す操作を指す。

総合解説：サーバ台数を増やして水平に処理能力を拡張する方式である。学習上は「スケールアップとスケールアウトを使い分けられる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0030

1-1 基礎理論・コンピュータシステム > 性能・信頼性・システム方式 | 難易度：応用

CPU使用率30%、メモリ使用率55%、ディスクI/O待ち時間が高く、ディスクキュー長が継続的に大きいシステムで、最初に疑うべきボトルネックはどれか。

- ア：ディスクI/O
- イ：CPU演算性能
- ウ：主記憶容量不足
- エ：DNS名前解決

答え・解説

正答：ア

- ア：CPUやメモリに余裕がある一方、I/O待ちとキュー長が高いため、ディスク系が有力なボトルネック候補である。
- イ：CPU使用率が低いため、与えられた観測値からは第一候補になりにくい。
- ウ：メモリ使用率55%だけでは容量不足を示さない。
- エ：提示されたディスクI/O指標の異常を直接説明しない。

総合解説：CPUやメモリに余裕がある一方、I/O待ちとキュー長が高いため、ディスク系が有力なボトルネック候補である。学習上は「性能ボトルネックを計測結果から特定する考え方を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0031

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > データベース | 難易度：基礎

関係データベースにおける外部キーの主な役割として最も適切なものはどれか。

ア：全ての列値を一意にする

イ：SQL文を暗号化する

ウ：別表の主キーなどを参照し、表間の参照整合性を保つ

エ：表内の全行を物理的に並べ替える

答え・解説

正答：ウ

ア：外部キー自体は一意である必要はなく、重複を持ち得る。

イ：キー制約はSQL暗号化機能ではない。

ウ：外部キーは参照先の候補キー等との関係を制約し、参照整合性を支える。

エ：外部キーは行の物理順序を定めるものではない。

総合解説：外部キーは参照先の候補キー等との関係を制約し、参照整合性を支える。学習上は「主キーと外部キーの役割を区別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0032

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > データベース | 難易度：標準

受注明細表で、受注番号から顧客番号が決まり、顧客番号から顧客名が決まるため、受注番号に対して顧客名が推移的に従属している。更新時の不整合を減らすための対応として最も適切なものはどれか。

ア：全列を1つの文字列へ連結して保存する

イ：顧客番号と顧客名を顧客表へ分離し、受注側は顧客番号を参照する

ウ：顧客名を全ての受注明細行に重複保存する

エ：受注番号を削除して顧客名だけを主キーにする

答え・解説

正答：イ

ア：検索・更新・整合性管理を難しくし、正規化の目的に反する。

イ：推移的関数従属を分離することで冗長性と更新異常を減らす。

ウ：冗長性が増え、顧客名変更時の更新漏れが起こりやすい。

エ：受注を識別できず、キー設計として不適切である。

総合解説：推移的関数従属を分離することで冗長性と更新異常を減らす。学習上は「第3正規形までの正規化目的を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0033

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > データベース | 難易度：基礎

トランザクションのACID特性におけるAtomicity（原子性）の説明として最も適切なものはどれか。

ア：同時実行しても結果が直列実行と整合する

イ：コミット後の結果が障害後も保持される

ウ：制約を満たす状態から制約を満たす状態へ遷移する

エ：一連の処理を全て実行するか、全て取り消すかのどちらかにする

答え・解説

正答：エ

ア：これは主にIsolation（独立性・分離性）の説明である。

イ：これはDurability（永続性）の説明である。

ウ：これはConsistency（整合性）の説明である。

エ：部分的な更新だけが残らないようにする性質が原子性である。

総合解説：部分的な更新だけが残らないようにする性質が原子性である。学習上は「ACID特性のうち原子性を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0034

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > データベース | 難易度：標準

トランザクションT1が行Aをロックして行Bを待ち、T2が行Bをロックして行Aを待っている。最も適切な状態はどれか。

ア：ロストアップデート

イ：チェックポイント

ウ：デッドロック

エ：ダーティリード

答え・解説

正答：ウ

ア：同一データへの更新が上書きされ一方の更新が失われる現象である。

イ：復旧処理を効率化するための記録点であり、待ち状態ではない。

ウ：互いに相手が保持する資源を待つ循環待ちが発生している。

エ：未コミットデータを別トランザクションが読む現象である。

総合解説：互いに相手が保持する資源を待つ循環待ちが発生している。学習上は「排他制御に伴うデッドロックを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0035

1-2 データ・ネットワーク・クラウド> データベース | 難易度：標準

トランザクションT1が更新したがまだコミットしていない値をT2が読み、その後T1がロールバックした。T2が読み込んだ現象はどれか。

- ア：デッドロック
- イ：ダーティリード
- ウ：ファントムリード
- エ：非再現読取り

答え・解説

正答：イ

ア：相互待ちで処理が進まない現象であり、未コミット値の読取りではない。

イ：未コミットの変更を他トランザクションが読み取る現象である。

ウ：同じ条件検索で、他トランザクションの挿入・削除により行集合が変わる現象である。

エ：同じ行を再読したとき、他トランザクションの更新により値が変わる現象である。

総合解説：未コミットの変更を他トランザクションが読み取る現象である。学習上は「ダーティリードを識別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0036

1-2 データ・ネットワーク・クラウド> データベース | 難易度：標準

検索条件で頻繁に使う列にインデックスを追加する効果として最も適切なものはどれか。

- ア：全てのSQLが必ず高速化し、更新コストも減る
- イ：検索を高速化できる可能性がある一方、更新時のインデックス保守コストが増える
- ウ：主記憶容量を必ず0にできる
- エ：参照整合性制約が不要になる

答え・解説

正答：イ

ア：用途や選択度に依存し、更新時には追加コストが生じる。

イ：インデックスは検索を助けるが、INSERT/UPDATE/DELETE時に維持処理が必要になる。

ウ：インデックスはメモリ使用をなくすものではない。

エ：インデックスと外部キー等の整合性制約は別の仕組みである。

総合解説：インデックスは検索を助けるが、INSERT/UPDATE/DELETE時に維持処理が必要になる。学習上は「インデックスの利点と更新コストを評価できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0037

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > データベース | 難易度：応用

売上表から顧客ごとの売上合計を求め、その合計が100万円以上の顧客だけを抽出したい。集計結果に対する条件指定に用いる句として最も適切なものはどれか。

ア：ORDER BY

イ：HAVING

ウ：CREATE VIEW

エ：WHERE

答え・解説

正答：イ

ア：結果の並び順を指定する句であり、集計値の抽出条件ではない。

イ：GROUP BY後の集計結果に対する条件はHAVINGで指定する。

ウ：ビュー定義のための文であり、集計後の条件句ではない。

エ：WHEREは基本的に集計前の行を絞り込む条件に用いる。

総合解説：GROUP BY後の集計結果に対する条件はHAVINGで指定する。学習上は「GROUP BYとHAVINGの役割を使い分けられる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0038

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > データベース | 難易度：標準

顧客表の全顧客を残し、注文が存在する顧客には注文情報も付加したい。注文がない顧客も結果に含める結合として最も適切なものはどれか。

ア：顧客表を左側にしたLEFT OUTER JOIN

イ：SELF JOIN

ウ：INNER JOINのみ

エ：CROSS JOIN

答え・解説

正答：ア

ア：左外部結合は左表の行を全て残し、一致する右表の行を結合する。

イ：同一表を別名で結合する方法で、顧客と注文の関係を示す要件ではない。

ウ：一致する行だけが結果となるため、注文のない顧客は除外される。

エ：全組合せの直積となり、要件と異なる。

総合解説：左外部結合は左表の行を全て残し、一致する右表の行を結合する。学習上は「外部結合の意味を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0039

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > データベース | 難易度：応用

DBMSが更新ログを記録し、障害後にコミット済み更新を再適用したり、未コミット更新を取り消したりする主な目的はどれか。

ア：トランザクションの整合性を保ってデータベースを回復する

イ：SQL文の構文エラーを自動修正する

ウ：全ての問い合わせをキャッシュだけで処理する

エ：ネットワーク経路を再計算する

答え・解説

正答：ア

ア：REDO/UNDO等により障害前後の整合した状態へ回復する。

イ：更新ログの主目的ではない。

ウ：ログはキャッシュ代替ではない。

エ：DB回復とルーティングは別機能である。

総合解説：REDO/UNDO等により障害前後の整合した状態へ回復する。学習上は「ログを用いた障害回復の考え方を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0040

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > データベース | 難易度：基礎

日々の受注・入金など多数の短い更新処理を即時に記録する用途に最も適するものはどれか。

ア：OLTPシステム

イ：静的Webページだけの配信システム

ウ：DNSキャッシュサーバ

エ：データウェアハウスだけで構成した分析専用システム

答え・解説

正答：ア

ア：多数のオンライン取引を迅速・整合的に処理する用途に向く。

イ：トランザクションデータ更新の要件を満たさない。

ウ：名前解決のためのシステムであり、受注更新とは無関係である。

エ：履歴分析には向くが、日々の短い更新取引の主用途ではない。

総合解説：多数のオンライン取引を迅速・整合的に処理する用途に向く。学習上は「OLTPとデータウェアハウスの用途を区別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0041

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > ネットワーク | 難易度：基礎

信頼性のあるバイトストリーム、順序制御、再送制御を提供するトランスポート層プロトコルはどれか。

ア：ARP
イ：UDP
ウ：IP
エ：TCP

答え・解説

正答：エ

ア：IPv4でIPアドレスとリンク層アドレスの対応を解決する仕組みである。

イ：UDPはデータグラム型で、TCPのような再送・順序保証を基本機能として提供しない。

ウ：IPはネットワーク層のプロトコルであり、エンド間の再送制御を提供しない。

エ：TCPはコネクション型で、順序制御や再送などにより信頼性のある通信を提供する。

総合解説：TCPはコネクション型で、順序制御や再送などにより信頼性のある通信を提供する。学習上は「TCPとUDPの性質を区別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0042

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > ネットワーク | 難易度：標準

IPv4ネットワーク 192.0.2.0/26 におけるホスト部のビット数はどれか。

ア：6ビット（32ビットからプレフィックス長26を引く）
イ：26ビット（プレフィックス長そのものをホスト部とみなす）
ウ：8ビット（/24の場合のホスト部を用いる）
エ：32ビット（IPv4アドレス全体の長さを答える）

答え・解説

正答：ア

ア：IPv4は32ビットであり、/26はネットワーク部26ビットなのでホスト部は $32 - 26 = 6$ ビットである。

イ：/26はネットワーク部の長さであり、ホスト部ではない。

ウ：/24の場合のホスト部である。

エ：アドレス全体のビット数であり、ホスト部ではない。

総合解説：IPv4は32ビットであり、/26はネットワーク部26ビットなのでホスト部は $32 - 26 = 6$ ビットである。学習上は「CIDRプレフィックスからホスト部のビット数を計算できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0043

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > ネットワーク | 難易度：基礎

DNSの主な役割として最も適切なものはどれか。

ア：ドメイン名とIPアドレスなどの資源情報を分散階層的に管理・名前解決する

イ：LAN内のフレームをMACアドレスで転送する

ウ：TCP接続の輻輳ウィンドウを制御する

エ：IPパケットを暗号化する

答え・解説

正答：ア

ア：DNSは名前空間を分散管理し、各種リソースレコードを用いて名前解決を行う。

イ：これはL2スイッチの代表的機能である。

ウ：TCP輻輳制御の機能でありDNSではない。

エ：DNS自体の主機能は暗号化ではない。

総合解説：DNSは名前空間を分散管理し、各種リソースレコードを用いて名前解決を行う。学習上は「DNSの役割を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0044

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > ネットワーク | 難易度：標準

IPアドレスを見て異なるネットワーク間にパケットを転送する装置の役割に最も近いOSI参照モデルの層はどれか。

ア：アプリケーション層

イ：ネットワーク層

ウ：物理層

エ：データリンク層

答え・解説

正答：イ

ア：利用者向けネットワークサービスやアプリケーションプロトコルを扱う。

イ：IPによる経路選択とネットワーク間転送はネットワーク層の機能である。

ウ：ビット伝送や電気・光信号などの物理特性を扱う。

エ：同一リンク内のフレーム転送やMACなどを扱う。

総合解説：IPによる経路選択とネットワーク間転送はネットワーク層の機能である。学習上は「OSI参照モデルと機器の役割を対応付けられる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0045

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > ネットワーク | 難易度：標準

IPv6アドレスの長さとして正しいものはどれか。

- ア：32ビット（IPv4と同じアドレス長）
- イ：48ビット（一般的なMACアドレス相当の長さ）
- ウ：128ビット（IPv6の標準アドレス長）
- エ：256ビット（IPv6標準の2倍の長さ）

答え・解説

正答：ウ

ア：IPv4のアドレス長である。

イ：一般的なMACアドレス長として見られる値でありIPv6ではない。

ウ：IPv6はIPv4の32ビットからアドレス長を128ビットへ拡張した。

エ：IPv6の標準アドレス長ではない。

総合解説：IPv6はIPv4の32ビットからアドレス長を128ビットへ拡張した。学習上は「IPv6のアドレス長を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0046

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > ネットワーク | 難易度：標準

ルータの経路表に 10.0.0.0/8 と 10.1.0.0/16 があり、宛先が10.1.2.3である。一般的なIPルーティングで優先される経路はどれか。

- ア：両方に一致するため必ず破棄する
- イ：宛先IPに関係なく最初に登録した経路
- ウ：10.0.0.0/8
- エ：10.1.0.0/16

答え・解説

正答：エ

ア：複数一致時は最長一致などの規則で経路選択できる。

イ：通常は登録順だけで選ぶのではなく、経路選択規則に従う。

ウ：一致するが/16より具体性が低い。

エ：より長いプレフィックスに一致する経路の方が、より具体的な経路として選ばれる。

総合解説：より長いプレフィックスに一致する経路の方が、より具体的な経路として選ばれる。学習上は「ルーティングで最長一致を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0047

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > ネットワーク | 難易度：標準

1台のL2スイッチ上で部署ごとに論理的なブロードキャストドメインを分離したい。最も適切な技術はどれか。

- ア：RAID
- イ：NAT
- ウ：VLAN
- エ：DNS

答え・解説

正答：ウ

ア：ストレージ冗長化技術である。

イ：IPアドレス変換の技術であり、L2ブロードキャストドメイン分離が主目的ではない。

ウ：VLANは物理構成とは独立にL2ネットワークを論理分割できる。

エ：名前解決の仕組みである。

総合解説：VLANは物理構成とは独立にL2ネットワークを論理分割できる。学習上は「VLANの目的を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0048

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > ネットワーク | 難易度：応用

音声会議の遅延やジッタを抑えるため、混雑時でも音声トラフィックを優先して帯域・待ち行列を制御したい。最も関連が深い技術はどれか。

- ア：DNSラウンドロビンのみ
- イ：QoS制御
- ウ：ファイル圧縮
- エ：データベース正規化

答え・解説

正答：イ

ア：名前解決先の分散には使えるが、パケットの優先制御や帯域保証そのものではない。

イ：トラフィック分類、優先制御、帯域制御等によって通信品質を管理する。

ウ：データ量を減らす可能性はあるが、ネットワーク上の優先制御の仕組みではない。

エ：データ構造設計であり、音声通信品質制御とは無関係である。

総合解説：トラフィック分類、優先制御、帯域制御等によって通信品質を管理する。学習上は「QoSの利用目的を判断できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0049

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > ネットワーク | 難易度：基礎

ネットワーク機器の状態や統計情報を監視・管理するために広く利用されるプロトコルはどれか。

- ア：FTP
- イ：DHCP
- ウ：SNMP
- エ：SMTP

答え・解説

正答：ウ

ア：ファイル転送のためのプロトコルである。

イ：IPアドレス等の設定を動的配布するためのプロトコルである。

ウ：SNMPはネットワーク管理情報の取得・通知等に用いられる。

エ：電子メール配送のためのプロトコルである。

総合解説：SNMPはネットワーク管理情報の取得・通知等に用いられる。学習上は「SNMPの用途を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0050

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > ネットワーク | 難易度：応用

多少のパケット損失よりも低遅延を優先し、アプリケーション側で必要に応じて損失補償を行うリアルタイム通信を設計する。トランスポート層として候補になりやすいものはどれか。

- ア：ICMP
- イ：UDP
- ウ：TCPだけが唯一の選択肢である
- エ：DNS

答え・解説

正答：イ

ア：IPの制御・エラー通知などに使われ、一般的なアプリケーションデータのトランスポートとして用いるものではない。

イ：UDPはコネクション確立や標準の再送制御を持たず、低遅延を重視するアプリケーションで利用されることがある。

ウ：TCPは信頼性を提供するが、要件によってUDP等が選択されることもある。

エ：アプリケーション層の名前解決サービスであり、トランスポート層の選択肢ではない。

総合解説：UDPはコネクション確立や標準の再送制御を持たず、低遅延を重視するアプリケーションで利用されることがある。学習上は「TCPとUDPの選択を要件から判断できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0051

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > クラウド・仮想化 | 難易度：基礎

NISTのクラウドサービスモデルで、利用者がOSやアプリケーションを配置でき、基盤となる物理計算資源は提供者が管理するモデルはどれか。

- ア：SaaS
- イ：PaaS
- ウ：IaaS
- エ：オンプレミス

答え・解説

正答：ウ

ア：提供者のアプリケーションを利用するモデルで、利用者が通常OSを管理するモデルではない。
イ：提供されたプラットフォーム上へアプリケーションを配置するモデルで、OS管理の自由度はIaaSより小さい。

ウ：IaaSでは処理・ストレージ・ネットワーク等の基盤資源が提供され、利用者はOSやアプリケーションを制御できる。

エ：NISTの3サービスモデルの名称ではない。

総合解説：IaaSでは処理・ストレージ・ネットワーク等の基盤資源が提供され、利用者はOSやアプリケーションを制御できる。学習上は「IaaSの責任範囲の概要を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0052

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > クラウド・仮想化 | 難易度：基礎

開発者がOSやミドルウェアの詳細な運用を極力意識せず、提供された実行環境へ自作アプリケーションを配置したい。最も近いクラウドサービスモデルはどれか。

- ア：SaaS
- イ：コミュニティクラウド
- ウ：IaaS
- エ：PaaS

答え・解説

正答：エ

ア：SaaSは提供者の完成済みアプリケーションを利用するモデルである。

イ：これは展開モデルであり、サービスモデルではない。

ウ：IaaSでは利用者がOS等をより直接管理する。

エ：PaaSは提供者が用意したプラットフォーム上へ利用者のアプリケーションを配置するモデルである。

総合解説：PaaSは提供者が用意したプラットフォーム上へ利用者のアプリケーションを配置するモデルである。学習上は「PaaSの特徴を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0053

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > クラウド・仮想化 | 難易度：標準

NISTが示すクラウドコンピューティングの本質的特性に含まれるものはどれか。

- ア：必ずオフライン環境だけで利用すること
- イ：全資源を単一顧客だけに永久固定すること
- ウ：オンデマンド・セルフサービス
- エ：利用量を一切計測しないこと

答え・解説

正答：ウ

ア：Broad network accessと反する。

イ：資源プールやマルチテナントの考え方と反する。

ウ：利用者が必要に応じて計算資源等を自動的に調達できることは5つの本質的特性の一つである。

エ：Measured service（計測可能なサービス）と反する。

総合解説：利用者が必要に応じて計算資源等を自動的に調達できることは5つの本質的特性の一つである。学習上は「クラウドの本質的特性を識別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0054

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > クラウド・仮想化 | 難易度：標準

機密性の高い処理は自社専用クラウドで行い、需要急増時の一部処理をパブリッククラウドへ拡張する構成は、NISTの展開モデルでは最も何に近い。

- ア：パブリッククラウドのみ
- イ：プライベートクラウドのみ
- ウ：SaaS
- エ：ハイブリッドクラウド

答え・解説

正答：エ

ア：自社専用クラウドとの組合せを表せない。

イ：パブリッククラウドとの連携部分を表せない。

ウ：SaaSは展開モデルではなくサービスモデルである。

エ：異なるクラウド基盤を組み合わせ、データやアプリケーションの移動等を可能にする構成である。

総合解説：異なるクラウド基盤を組み合わせ、データやアプリケーションの移動等を可能にする構成である。学習上は「パブリック・プライベート・ハイブリッドを区別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0055

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > クラウド・仮想化 | 難易度：標準

サーバ仮想化におけるハイパーバイザの主な役割として最も適切なものはどれか。

ア：DNSのゾーン転送だけを行う

イ：CPU・メモリ・ネットワーク・ストレージ等の物理資源を抽象化し、複数VMへ割り当てる

ウ：全ユーザのパスワードを平文保存する

エ：SQL文を正規化する

答え・解説

正答：イ

ア：名前解決専用機能ではない。

イ：ハイパーバイザは物理資源を仮想化し、複数の仮想マシンを単一ホスト上で実行可能にする。

ウ：仮想化の役割ではなく、セキュリティ上も不適切である。

エ：データベース設計の機能ではない。

総合解説：ハイパーバイザは物理資源を仮想化し、複数の仮想マシンを単一ホスト上で実行可能にする。学習上は「ハイパーバイザの役割を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0056

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > クラウド・仮想化 | 難易度：標準

一般的なコンテナ方式について、仮想マシン方式との比較として最も適切な説明はどれか。

ア：コンテナはホストOSのカーネルを共有するため、一般にVMより起動が軽量・高速になりやすい

イ：VMはハイパーバイザを用いず必ずホストOSの同一カーネルを共有する

ウ：コンテナごとに必ず独立した物理CPUを1個占有する

エ：コンテナはネットワークを一切利用できない

答え・解説

正答：ア

ア：コンテナはプロセス隔離等を用いてカーネルを共有するため、ゲストOSを個別起動するVMより軽量になりやすい。

イ：これはコンテナに近い説明で、VMは通常仮想ハードウェア上にゲストOSを持つ。

ウ：物理CPUを専有することがコンテナの必須条件ではない。

エ：仮想ネットワーク等を利用して通信できる。

総合解説：コンテナはプロセス隔離等を用いてカーネルを共有するため、ゲストOSを個別起動するVMより軽量になりやすい。学習上は「仮想マシンとコンテナの隔離単位の違いを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0057

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > クラウド・仮想化 | 難易度：標準

クラウド提供者が物理・仮想資源をプールし、複数利用者へ需要に応じて動的に割り当てる特性はどれか。

- ア：固定専有のみ
- イ：手作業による個別調達のみ
- ウ：非計測サービス
- エ：リソースプーリング

答え・解説

正答：エ

- ア：需要に応じた動的割当てや共有という説明と反する。
- イ：オンデマンド・セルフサービス等のクラウド特性と反する。
- ウ：利用量の計測可能性と反する。
- エ：NISTの本質的特性で、マルチテナントモデルにより資源を動的に割り当てる。

総合解説：NISTの本質的特性で、マルチテナントモデルにより資源を動的に割り当てる。学習上は「資源プーリングとマルチテナントを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0058

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > クラウド・仮想化 | 難易度：応用

キャンペーン期間だけアクセスが10倍になり、終了後は通常水準へ戻る。需要に合わせて資源を素早く増減したい。この要件と最も関係が深いクラウドの特性はどれか。

- ア：物理媒体の持出し管理
- イ：手動バックアップだけの運用
- ウ：固定的な単一構成
- エ：Rapid elasticity（迅速な伸縮性）

答え・解説

正答：エ

- ア：セキュリティ管理策であり、クラウドの伸縮性の説明ではない。
- イ：資源の自動的な増減とは別の要件である。
- ウ：需要変動への伸縮性を持たない。
- エ：需要に応じて資源を迅速に拡張・縮小できる特性である。

総合解説：需要に応じて資源を迅速に拡張・縮小できる特性である。学習上は「迅速な伸縮性を要件から判断できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0059

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > クラウド・仮想化 | 難易度：応用

仮想マシンを稼働させたまま、利用者への停止影響を抑えて別の物理ホストへ移動する機能として最も適切なものはどれか。

- ア：データベース正規化
- イ：ライブマイグレーション
- ウ：コールドバックアップ
- エ：DNSSEC

答え・解説

正答：イ

ア：データモデルの冗長性を減らす設計手法である。

イ：VMの実行状態を維持しながら別ホストへ移すことで、保守や負荷分散時の停止を抑えられる。

ウ：停止状態のデータ保全方式であり、稼働中VMのホスト移動そのものではない。

エ：DNS応答の真正性等を検証する仕組みである。

総合解説：VMの実行状態を維持しながら別ホストへ移すことで、保守や負荷分散時の停止を抑えられる。学習上は「ライブマイグレーションの目的を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0060

1-2 データ・ネットワーク・クラウド > クラウド・仮想化 | 難易度：基礎

NISTのクラウド特性で、資源利用量を計測・監視・報告し、利用状況の透明性や従量的管理を可能にするものはどれか。

- ア：Measured service
- イ：Broad network access
- ウ：Resource pooling
- エ：Community cloud

答え・解説

正答：ア

ア：資源利用を計測可能にし、利用量に応じた管理や報告を可能にする特性である。

イ：標準的なネットワーク経由で多様な端末から利用できる特性である。

ウ：複数利用者向けに資源をプールする特性である。

エ：特定コミュニティ向けの展開モデルであり、本質的的特性ではない。

総合解説：資源利用を計測可能にし、利用量に応じた管理や報告を可能にする特性である。学習上は「Measured serviceの意味を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0061

1-3 セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：基礎

共通鍵暗号方式の特徴として最も適切なものはどれか。

ア：鍵を一切使わずハッシュ値だけで復号する

イ：暗号化と復号に同じ秘密鍵を用いるため、通信相手との安全な鍵共有が課題になる

ウ：必ずデジタル証明書がないと暗号化できない

エ：暗号化鍵を公開し復号鍵だけ秘密にする

答え・解説

正答：イ

ア：ハッシュ関数は一方向性を利用し、通常復号という概念を持たない。

イ：共通鍵暗号は高速だが、共有秘密鍵を安全に配布・管理する必要がある。

ウ：共通鍵暗号そのものに証明書は必須ではない。

エ：これは公開鍵暗号方式の基本的な説明である。

総合解説：共通鍵暗号は高速だが、共有秘密鍵を安全に配布・管理する必要がある。学習上は「共通鍵暗号の特徴を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0062

1-3 セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：基礎

受信者だけが読めるように公開鍵暗号でメッセージを暗号化する場合、通常どの鍵で暗号化するか。

ア：受信者の秘密鍵を全員に配布して用いる

イ：送信者の公開鍵

ウ：受信者の公開鍵

エ：送信者の秘密鍵

答え・解説

正答：ウ

ア：秘密鍵を公開・配布しては安全性が失われる。

イ：送信者の公開鍵では受信者だけが復号できるという要件を満たさない。

ウ：受信者の公開鍵で暗号化し、対応する受信者の秘密鍵で復号する。

エ：署名に関連する使い方であり、機密性確保のための暗号化ではない。

総合解説：受信者の公開鍵で暗号化し、対応する受信者の秘密鍵で復号する。学習上は「公開鍵暗号の鍵の使い分けを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0063

1-3 セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：標準

HTTPS等で一般的な考え方として、データ本体は共通鍵暗号で高速に暗号化し、その共通鍵の共有に公開鍵技術等を利用する方式の利点として最も適切なものはどれか。

- ア：全ての鍵管理が不要になる
- イ：ハッシュ関数を復号可能にできる
- ウ：暗号化しなくても機密性が保証される
- エ：共通鍵暗号の処理効率と、公開鍵技術による鍵共有の利便性を組み合わせられる

答え・解説

正答：エ

- ア：どの方式でも鍵管理は必要である。
- イ：ハイブリッド暗号はハッシュの一方方向性を変えるものではない。
- ウ：機密性には適切な暗号化等が必要である。
- エ：大量データの暗号化は共通鍵で効率化し、鍵交換・認証には公開鍵技術を活用できる。
- 総合解説：大量データの暗号化は共通鍵で効率化し、鍵交換・認証には公開鍵技術を活用できる。学習上は「ハイブリッド暗号の構成理由を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0064

1-3 セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：標準

ファイルが改ざんされていないか確認する用途でハッシュ値を利用する主な理由として最も適切なものはどれか。

- ア：ハッシュ値はどんな入力でも必ず同じになるから
- イ：ハッシュを使えば送信者認証が常に自動成立するから
- ウ：ハッシュ値から元ファイルを必ず完全復元できるから
- エ：入力が少し変わるとハッシュ値が変化し、元データの同一性確認に利用できるから

答え・解説

正答：エ

- ア：入力に応じて異なる値となることが必要である。
- イ：単なるハッシュ値だけでは送信者認証は保証できず、MACや署名等が必要になる。
- ウ：暗号学的ハッシュは一方方向性を前提とし、復元目的ではない。
- エ：信頼できる基準値と比較することで改ざん検知に利用できる。
- 総合解説：信頼できる基準値と比較することで改ざん検知に利用できる。学習上は「暗号学的ハッシュ関数の用途を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0065

1-3 セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：標準

送信者Aが自分の秘密鍵でデジタル署名を生成した。受信者が署名を検証するときに用いる鍵として最も適切なものはどれか。

ア：Aの公開鍵

イ：受信者の公開鍵

ウ：Aの秘密鍵

エ：受信者の秘密鍵

答え・解説

正答：ア

ア：Aの秘密鍵で作成した署名は、対応するAの公開鍵で検証する。

イ：受信者の鍵では送信者Aの署名を検証できない。

ウ：秘密鍵は署名者が秘匿すべきで、検証者へ配布しない。

エ：署名者Aの署名検証にはAの公開鍵を用いる。

総合解説：Aの秘密鍵で作成した署名は、対応するAの公開鍵で検証する。学習上は「デジタル署名の検証を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0066

1-3 セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：標準

メッセージ認証コード（MAC）の一般的な特徴として最も適切なものはどれか。

ア：第三者に対する否認防止をデジタル署名と同様に常に提供する

イ：元メッセージを暗号化して読めなくすることが主目的である

ウ：共有秘密鍵などを用いてメッセージの完全性と認証を確認する

エ：公開鍵証明書を必ず発行する仕組みである

答え・解説

正答：ウ

ア：共有鍵を複数当事者が知るため、一般にデジタル署名と同じ否認防止性はない。

イ：MACの主目的は機密性ではなく完全性・認証である。

ウ：MACは共有鍵を知る当事者間で改ざん検知とメッセージ認証に利用される。

エ：MAC自体はPKIや証明書を必須としない。

総合解説：MACは共有鍵を知る当事者間で改ざん検知とメッセージ認証に利用される。学習上は「MACとデジタル署名の違いを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0067

1-3 セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：標準

PKIにおける認証局（CA）の役割として最も適切なものはどれか。

ア：全ての通信データを平文で保存する

イ：IPアドレスを自動配布する

ウ：利用者の秘密鍵を公開Webサイトへ掲載する

エ：公開鍵と主体の識別情報を結び付けるデジタル証明書を発行・管理する

答え・解説

正答：エ

ア：CAの役割ではなく、機密性も損なう。

イ：これはDHCPの代表的な機能である。

ウ：秘密鍵は本人が秘匿すべきである。

エ：CAは証明書の発行、失効等を通じて公開鍵の信頼性を支える。

総合解説：CAは証明書の発行、失効等を通じて公開鍵の信頼性を支える。学習上は「PKIにおける認証局の役割を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0068

1-3 セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：応用

「パスワード」と「スマートフォンに表示されるワンタイムコード」の組合せを、多要素認証として評価する際のポイントとして最も適切なものはどれか。

ア：生体認証だけを2回連続すれば必ず異なる要素になる

イ：入力回数が2回なら必ず多要素認証である

ウ：異なる種類の認証要素に基づくかを確認する必要がある、単に2段階であるだけでは十分でない

エ：パスワードを2種類入力すれば必ず多要素認証である

答え・解説

正答：ウ

ア：同じ生体要素カテゴリを繰り返しても異なる要素カテゴリとはならない。

イ：同一種類の要素を2回使っても多要素とは限らない。

ウ：多要素認証は知識・所持・生体など異なる要素カテゴリを組み合わせる考え方である。

エ：どちらも知識要素なので多要素とは言えない。

総合解説：多要素認証は知識・所持・生体など異なる要素カテゴリを組み合わせる考え方である。学習上は「多要素認証の要素を区別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0069

1-3 セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：応用

利用者個人ごとではなく、「経理担当」「承認者」など職務上の役割に権限を割り当て、利用者には役割を付与する方式はどれか。

ア：DACだけを意味する

イ：NAT

ウ：RBAC (Role-Based Access Control)

エ：RAID

答え・解説

正答：ウ

ア：DACは所有者等の裁量に基づくアクセス制御で、役割中心という定義ではない。

イ：ネットワークアドレス変換技術であり、認可モデルではない。

ウ：役割に権限を関連付け、利用者を役割へ割り当てるアクセス制御方式である。

エ：ストレージ冗長化技術であり、アクセス制御モデルではない。

総合解説：役割に権限を関連付け、利用者を役割へ割り当てるアクセス制御方式である。学習上は「RBACの考え方を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0070

1-3 セキュリティ > 暗号・認証・アクセス制御 | 難易度：基礎

OAuthの主目的として最も適切なものはどれか。

ア：利用者のパスワードを第三者アプリへ渡さず、限定された資源アクセス権を委譲する認可

イ：DNS名前解決を高速化する

ウ：ディスク障害からRAIDを復旧する

エ：パスワードハッシュを暗号化せず公開する

答え・解説

正答：ア

ア：OAuthは主として認可の委譲を扱う枠組みである。

イ：DNSキャッシュ等の機能でありOAuthとは無関係である。

ウ：ストレージ冗長化の領域でありOAuthとは無関係である。

エ：OAuthの目的ではなく危険である。

総合解説：OAuthは主として認可の委譲を扱う枠組みである。学習上は「OAuthの主目的を認証と区別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0071

1-3 セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ対策 | 難易度：基礎

WebアプリケーションのSQLインジェクション対策として最も適切なものはどれか。

ア：プリペアドステートメントなどのパラメータ化クエリを用い、SQL構造と入力値を分離する

イ：全利用者へDB管理者権限を付与する

ウ：利用者入力をそのままSQL文字列へ連結する

エ：DBのエラーメッセージを詳細に全利用者へ表示する

答え・解説

正答：ア

ア：入力値をSQLコードとして解釈させない設計が主要対策である。

イ：被害範囲を拡大し、最小権限にも反する。

ウ：典型的な脆弱性原因であり対策と逆である。

エ：情報露出を増やし、SQLインジェクション防止にはならない。

総合解説：入力値をSQLコードとして解釈させない設計が主要対策である。学習上は「SQLインジェクションの主要対策を選べる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0072

1-3 セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ対策 | 難易度：基礎

利用者が投稿した文字列をHTMLへ表示する機能で、XSSを防ぐ基本策として最も適切なものはどれか。

ア：全入力をSQLのWHERE句へ連結する

イ：Cookieの有効期限だけを延長する

ウ：画面の文字サイズを固定する

エ：出力先のコンテキストに応じて適切なエンコーディングを行う

答え・解説

正答：エ

ア：SQLインジェクションの危険を高め、XSS対策にもならない。

イ：XSSによるスクリプト実行を防ぐ仕組みではない。

ウ：表示上の設定であり、スクリプト注入対策ではない。

エ：HTML、属性、JavaScript等の文脈に応じた出力エンコーディングが重要である。

総合解説：HTML、属性、JavaScript等の文脈に応じた出力エンコーディングが重要である。学習上は「XSS対策として出力エンコーディングを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0073

1-3 セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ対策 | 難易度：標準

ログイン中の利用者のブラウザを悪用し、本人の意図しない送金要求を正規サイトへ送らせる攻撃への対策として最も適切なものはどれか。

ア：全レスポンスを同じ固定文字列にする

イ：推測困難なCSRFトークンを要求ごとに検証する

ウ：DBの主キーを連番にする

エ：パスワードをURLのクエリ文字列へ常に付加する

答え・解説

正答：イ

ア：要求の正当性を検証する仕組みではない。

イ：正規画面から発行したトークンを検証することで、第三者サイトからの偽造要求を識別しやすくなる。

ウ：データ設計でありCSRF防止とは無関係である。

エ：機密情報露出の危険があり、CSRF対策にもならない。

総合解説：正規画面から発行したトークンを検証することで、第三者サイトからの偽造要求を識別しやすくなる。学習上は「CSRFの仕組みとトークン対策を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0074

1-3 セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ対策 | 難易度：標準

他サービスから漏えいしたIDとパスワードの組合せを大量に用いて、同じ認証情報を使い回している利用者のアカウントへログインを試みる攻撃はどれか。

ア：DNSキャッシュポイズニング

イ：パスワードリスト攻撃 (credential stuffing)

ウ：総当たり攻撃だけを指す

エ：SQLインジェクション

答え・解説

正答：イ

ア：DNSキャッシュへ偽情報を混入させる攻撃である。

イ：漏えい済みの認証情報の組合せを別サービスで再利用する攻撃である。

ウ：総当たりは候補を網羅的に試す方式で、漏えい済み組合せ再利用とは異なる。

エ：DB問い合わせへSQL構文を注入する攻撃である。

総合解説：漏えい済みの認証情報の組合せを別サービスで再利用する攻撃である。学習上は「パスワードリスト攻撃を識別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0075

1-3 セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ対策 | 難易度：標準

ランサムウェアでオンライン上のデータや接続中バックアップまで暗号化される事態に備える対策として、最も有効性が高い考え方はどれか。

ア：バックアップを本番と同じ認証情報で常時書込み可能にする

イ：バックアップを一度も復元テストしない

ウ：本番環境から分離されたオフライン/イミュータブル等のバックアップも保持し、復元手順を検証する

エ：全端末へ管理者権限を常時付与する

答え・解説

正答：ウ

ア：侵害時にバックアップも破壊されるリスクが高まる。

イ：実際に復元できる保証が弱くなる。

ウ：攻撃者から同時に改変されにくいバックアップと復元テストが被害軽減に有効である。

エ：侵害時の影響範囲を広げる。

総合解説：攻撃者から同時に改変されにくいバックアップと復元テストが被害軽減に有効である。学習上は「ランサムウェア被害軽減のバックアップ設計を判断できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0076

1-3 セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ対策 | 難易度：標準

大量トラフィックによるサービス不能攻撃への対策として最も適切な考え方はどれか。

ア：認証を廃止して誰でも管理画面へ入れるようにする

イ：データベースの列名を短くする

ウ：レート制御、上流でのトラフィック吸収・分散、監視などを組み合わせる

エ：全てのアクセスログを削除して監視をやめる

答え・解説

正答：ウ

ア：別の重大なリスクを生み、可用性対策ではない。

イ：トラフィック攻撃の軽減に直接寄与しない。

ウ：DoS/DDoSは規模や手法が多様なため、単一对策だけでなく多層的な対策が重要である。

エ：攻撃検知・分析能力を下げる。

総合解説：DoS/DDoSは規模や手法が多様なため、単一对策だけでなく多層的な対策が重要である。学習上は「DoS対策の多層化を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0077

1-3 セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ対策 | 難易度：標準

CVSSの利用目的として最も適切なものはどれか。

ア：データベースを第3正規形へ自動変換する

イ：脆弱性の深刻度を共通指標で評価・表現し、対応優先度判断の材料にする

ウ：暗号鍵そのものを生成する

エ：ネットワーク経路を自動的に最短化する

答え・解説

正答：イ

ア：正規化ツールではない。

イ：CVSSは脆弱性の特性・深刻度を定量的に表すための指標として用いられる。

ウ：CVSSは暗号鍵生成方式ではない。

エ：ルーティングの指標ではない。

総合解説：CVSSは脆弱性の特性・深刻度を定量的に表すための指標として用いられる。学習上は「CVSSの位置付けを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0078

1-3 セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ対策 | 難易度：応用

公開直後で修正パッチがまだ提供されていない深刻な脆弱性が悪用されている。最も適切な対応方針はどれか。

ア：ベンダ情報を監視しつつ、影響機能の停止・アクセス制限・WAF等の緩和策を講じ、パッチ公開後速やかに適用する

イ：パッチがないため何もせず待つ

ウ：全てのログを削除して痕跡を残さない

エ：脆弱なサービスをインターネットへ追加公開する

答え・解説

正答：ア

ア：修正がない間は代替・緩和策でリスクを下げ、正式修正後に適用する。

イ：悪用が確認されているなら、可能な緩和策を講じる必要がある。

ウ：検知・調査を困難にし、対応として不適切である。

エ：攻撃面を拡大する。

総合解説：修正がない間は代替・緩和策でリスクを下げ、正式修正後に適用する。学習上は「ゼロデイ脆弱性のリスクを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0079

1-3 セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ対策 | 難易度：応用

取引先を装うメールから偽ログイン画面へ誘導し、認証情報を盗むフィッシングへの対策として最も適切なものはどれか。

ア：利用者教育、メール・URL検査、フィッシング耐性の高い認証など複数対策を組み合わせる

イ：パスワードを複数サービスで共用する

ウ：不審メールも自動的に全社へ転送する

エ：URLを確認せず必ずメール内リンクからログインする

答え・解説

正答：ア

ア：人だけ・技術だけに依存せず、複数層の防御で成功確率と被害を下げる。

イ：認証情報漏えい時の被害拡大につながる。

ウ：攻撃メールの拡散を助長する。

エ：攻撃者の誘導に従う行動で危険である。

総合解説：人だけ・技術だけに依存せず、複数層の防御で成功確率と被害を下げる。学習上は「フィッシングへの人的・技術的対策を判断できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0080

1-3 セキュリティ > 攻撃・脆弱性・セキュリティ対策 | 難易度：基礎

WAF (Web Application Firewall) の主な保護対象として最も適切なものはどれか。

ア：プリンタ用紙切れ

イ：CPUの故障によるハードウェア停止

ウ：RAIDのパリティ計算

エ：HTTP/HTTPSを利用するWebアプリケーションへの攻撃トラフィック

答え・解説

正答：エ

ア：物理運用の問題でありWebアプリ攻撃対策ではない。

イ：ハードウェア冗長化等の領域でありWAFの主対象ではない。

ウ：ストレージの機能である。

エ：WAFはWebアプリケーション層のリクエストを検査し、SQLインジェクションやXSS等の攻撃緩和に利用される。

総合解説：WAFはWebアプリケーション層のリクエストを検査し、SQLインジェクションやXSS等の攻撃緩和に利用される。学習上は「WAFの保護対象を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0081

1-3 セキュリティ > 情報セキュリティ管理 | 難易度：基礎

情報セキュリティの機密性（Confidentiality）の説明として最も適切なものはどれか。

ア：情報が必要なとき利用できる性質

イ：情報が不正に変更・破壊されていない性質

ウ：許可された者だけが情報へアクセスできるようにする性質

エ：処理速度が常に最大である性質

答え・解説

正答：ウ

ア：これは可用性の説明である。

イ：これは完全性の説明である。

ウ：機密性は認可されていない情報開示を防ぐ性質である。

エ：CIA三要素の定義ではない。

総合解説：機密性は認可されていない情報開示を防ぐ性質である。学習上は「CIA三要素を区別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0082

1-3 セキュリティ > 情報セキュリティ管理 | 難易度：標準

情報セキュリティリスクを評価する際の考え方として最も適切なものはどれか。

ア：発生可能性だけ見て影響を無視する

イ：対策費用だけでリスクの大小を決める

ウ：資産・脅威・脆弱性・影響・発生可能性などを考慮してリスクを分析する

エ：資産価値だけ見て脅威や脆弱性を無視する

答え・解説

正答：ウ

ア：高影響低頻度などのリスクを適切に扱えない。

イ：対策費用は対応選択の要素になり得るが、リスクそのものの評価とは異なる。

ウ：リスクは脅威と脆弱性が資産へ与える影響等を踏まえて評価する。

エ：リスク要因を十分に評価できない。

総合解説：リスクは脅威と脆弱性が資産へ与える影響等を踏まえて評価する。学習上は「リスクアセスメントの構成要素を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0083

1-3 セキュリティ > 情報セキュリティ管理 | 難易度：標準

高リスクな外部公開機能を廃止し、その機能を使わない業務方式へ変更する対応は、一般的なリスク対応では何に最も近いか。

- ア：リスク回避
- イ：リスク受容
- ウ：リスク低減
- エ：リスク移転・共有

答え・解説

正答：ア

ア：リスクを生む活動や条件そのものをやめることでリスク源を避ける。

イ：対策せず一定のリスクを受け入れる対応である。

ウ：管理策を追加して発生可能性や影響を下げる対応であり、活動自体を廃止する回避とは異なる。

エ：保険や契約等で影響を他者と分担する対応である。

総合解説：リスクを生む活動や条件そのものをやめることでリスク源を避ける。学習上は「リスク対応の選択肢を使い分けられる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0084

1-3 セキュリティ > 情報セキュリティ管理 | 難易度：基礎

最小権限の原則に最も合致する運用はどれか。

- ア：全利用者へ管理者権限を付与する
- イ：退職者のアカウントを無期限に有効化する
- ウ：共有管理者アカウントだけを使い個人識別をなくす
- エ：利用者へ業務遂行に必要な最小限の権限だけを付与し、不要になった権限は削除する

答え・解説

正答：エ

ア：必要以上の権限を与えるため原則に反する。

イ：不要なアクセス経路を残すため不適切である。

ウ：追跡性や責任分界を悪化させる。

エ：不要な権限を減らすことで誤操作や侵害時の影響を抑える。

総合解説：不要な権限を減らすことで誤操作や侵害時の影響を抑える。学習上は「最小権限の原則を適用できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0085

1-3 セキュリティ > 情報セキュリティ管理 | 難易度：標準

支払データの作成者と承認者を別担当者にする主な目的として最も適切なものはどれか。

ア：全ての監査ログを不要にする

イ：単独者による不正や誤りを抑止・検出しやすくする

ウ：パスワードを共有しやすくする

エ：処理速度を必ず2倍にする

答え・解説

正答：イ

ア：ログ等の統制は引き続き重要である。

イ：重要処理を複数の役割へ分けることで相互けん制を働かせる。

ウ：共有は追跡性を下げるため不適切である。

エ：職務分離の主目的は内部統制・不正抑止であり、性能向上ではない。

総合解説：重要処理を複数の役割へ分けることで相互けん制を働かせる。学習上は「職務分離の目的を説明できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0086

1-3 セキュリティ > 情報セキュリティ管理 | 難易度：標準

組織内で発生したセキュリティインシデントについて、関係部署と調整しながら対応方針決定、封じ込め、復旧、再発防止などを主導する組織として最も近いものはどれか。

ア：CSIRT

イ：DNSルートサーバ

ウ：SOCだけを意味する

エ：CA

答え・解説

正答：ア

ア：CSIRTはインシデント対応を調整・実施する役割を担う。

イ：名前解決基盤の一部であり、組織のインシデント対応チームではない。

ウ：SOCは常時監視・検知・分析を担うことが多く、インシデント対応組織とは役割が重なるが同義ではない。

エ：認証局であり、証明書の発行・管理を担う。

総合解説：CSIRTはインシデント対応を調整・実施する役割を担う。学習上は「CSIRTとSOCの役割の違いを理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0087

1-3 セキュリティ > 情報セキュリティ管理 | 難易度：応用

不正侵入が疑われるサーバを調査する際、原因究明や法的対応の可能性も考慮した初動として最も適切なものはどれか。

ア：業務影響を考慮しつつ、ログやメモリ・ディスク等の証拠を適切な手順で保全してから分析する

イ：痕跡を消すため最初にログを全削除する

ウ：調査記録を一切残さない

エ：攻撃者へ管理者パスワードを送って確認する

答え・解説

正答：ア

ア：不用意な操作で証拠を消さないよう、保全と記録を行いながら対応することが重要である。

イ：調査に必要な証拠を失うため不適切である。

ウ：対応の再現性・説明責任・証拠性を損なう。

エ：重大な追加侵害を招く不適切な行為である。

総合解説：不用意な操作で証拠を消さないよう、保全と記録を行いながら対応することが重要である。学習上は「インシデント対応で証拠保全の重要性を判断できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0088

1-3 セキュリティ > 情報セキュリティ管理 | 難易度：標準

顧客の個人情報を「機密」区分、公開済みパンフレットを「公開」区分とした。分類の目的として最も適切なものはどれか。

ア：公開情報を必ず暗号化して誰にも見せない

イ：分類後は棚卸しや見直しを行わない

ウ：全ての情報へ同じ最強管理だけを無条件適用する

エ：情報の重要度・機密性等に応じて保管、アクセス、持出し、廃棄などの管理レベルを変える

答え・解説

正答：エ

ア：公開情報の性質と矛盾する。

イ：情報の価値や利用状況は変化するため定期的な見直しが必要である。

ウ：コストや業務性を考慮したリスクベース管理にならない。

エ：資産分類により、保護要求に応じた管理策を適用しやすくなる。

総合解説：資産分類により、保護要求に応じた管理策を適用しやすくなる。学習上は「情報資産分類に応じた管理策を選ぶ」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0089

1-3 セキュリティ > 情報セキュリティ管理 | 難易度：基礎

災害発生後、業務システムを「4時間以内に再開する」という目標は、一般にどの指標に該当するか。

ア：RTO
イ：CVSS
ウ：RPO
エ：MTBF

答え・解説

正答：ア

ア：RTO（Recovery Time Objective）は、サービス・業務を復旧させるまでの目標時間である。
イ：脆弱性の深刻度評価指標である。
ウ：RPOは復旧時点として許容できるデータ損失量を時間で表す目標である。
エ：故障と故障の間の平均稼働時間である。

総合解説：RTO（Recovery Time Objective）は、サービス・業務を復旧させるまでの目標時間である。学習上は「RTOとRPOを区別できる」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0090

1-3 セキュリティ > 情報セキュリティ管理 | 難易度：応用

セキュリティログを時刻同期し、改ざんされにくい場所へ集中保管する主な目的として最も適切なものはどれか。

ア：ログを読めなくして監視を不可能にする
イ：全ての利用者へログ削除権限を与える
ウ：ログを保存せずリアルタイム表示だけにする
エ：複数システムの事象を時系列で相関分析し、インシデント調査の証拠性・追跡性を高める

答え・解説

正答：エ

ア：監視・調査の目的に反する。
イ：証拠の改ざん・消去リスクを高める。
ウ：事後調査や長期傾向分析に使えない。
エ：時刻整合と集中保管により、攻撃経路や操作履歴を横断的に分析しやすくなる。

総合解説：時刻整合と集中保管により、攻撃経路や操作履歴を横断的に分析しやすくなる。学習上は「ログ管理の目的を理解する」を、選択肢間の違いまで含めて判断できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0091

1-4 システム開発技術 > 要件定義・設計 | 難易度：基礎

オンライン販売システムの要件のうち、非機能要件に該当するものはどれか。

ア：会員が商品をお気に入りに登録できる。

イ：管理者が注文をキャンセルできる。

ウ：通常時の検索要求に対して95%以上を2秒以内に応答する。

エ：購入確定時に在庫数を減算する。

答え・解説

正答：ウ

ア：利用者が実行できる機能を定めるため機能要件である。

イ：業務機能を定めるため機能要件である。

ウ：応答時間は性能に関する品質特性であり、システムが「どの程度の品質で動くか」を定める非機能要件である。

エ：システムの振る舞い・処理機能を定めるため機能要件である。

総合解説：応答時間は性能に関する品質特性であり、システムが「どの程度の品質で動くか」を定める非機能要件である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0092

1-4 システム開発技術 > 要件定義・設計 | 難易度：標準

要求R1を設計D3、テストT7と関連付けて管理している。要件トレーサビリティを維持する効果として最も適切なものはどれか。

ア：要求変更があっても設計書の更新が不要になる。

イ：全要件を同じ優先度で実装することを保証する。

ウ：テストを実施せずに品質を保証できる。

エ：要求変更時に、影響を受ける設計要素やテストを追跡しやすくなる。

答え・解説

正答：エ

ア：追跡可能性は変更作業を不要にする仕組みではない。

イ：優先度付けは別の意思決定であり、トレーサビリティの直接目的ではない。

ウ：追跡性はテストの代替ではない。

エ：要求と下流成果物の対応関係を保持することで、変更影響や検証漏れを把握しやすくなる。

総合解説：要求と下流成果物の対応関係を保持することで、変更影響や検証漏れを把握しやすくなる。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0093

1-4 システム開発技術 > 要件定義・設計 | 難易度：標準

要件分析でユースケースを用いる主な目的はどれか。

ア：CPU命令の実行順序を記述する。

イ：データベース表の物理配置を決定する。

ウ：利用者などのアクタとシステムとの相互作用を、目的単位の振る舞いとして整理する。

エ：ネットワーク機器の配線長を算出する。

答え・解説

正答：ウ

ア：ハードウェア内部の命令実行を表す手法ではない。

イ：物理データ設計の目的とは異なる。

ウ：ユースケースは、外部のアクタが目的を達成するためにシステムとどのように相互作用するかを整理する。

エ：ネットワーク物理設計の目的とは異なる。

総合解説：ユースケースは、外部のアクタが目的を達成するためにシステムとどのように相互作用するかを整理する。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0094

1-4 システム開発技術 > 要件定義・設計 | 難易度：基礎

利用者に提示する画面項目、帳票形式、外部システムとのインタフェース仕様を具体化する工程として最も適切なものはどれか。

ア：外部設計

イ：内部設計

ウ：運用監査

エ：移行判定

答え・解説

正答：ア

ア：外部設計では利用者や外部システムから見える仕様、入出力、インタフェースなどを具体化する。

イ：内部設計ではプログラム構造やモジュール、内部データ構造など実装寄りの詳細を具体化する。

ウ：システムの設計仕様を定める工程ではない。

エ：設計前に外部仕様を定義する代替工程ではない。

総合解説：外部設計では利用者や外部システムから見える仕様、入出力、インタフェースなどを具体化する。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0095

1-4 システム開発技術 > 要件定義・設計 | 難易度：標準

保守性を高めるモジュール設計の一般的な方針として最も適切なものはどれか。

ア：モジュール内部の責務をまとめて凝集度を高め、モジュール間の依存を減らして結合度を低くする。

イ：一つのモジュールに無関係な機能を集め、他モジュールから内部変数を直接操作する。

ウ：全モジュールで同じグローバル変数を共有する。

エ：処理を細分化できるだけ細分化し、全モジュールを相互呼出しさせる。

答え・解説

正答：ア

ア：高凝集・低結合は、変更の局所化や理解容易性の向上につながる代表的な設計方針である。

イ：低凝集・強結合になり変更影響が広がりやすい。

ウ：暗黙の依存関係が増え、結合度が高くなる。

エ：分割自体が目的化し、依存関係が過度に複雑になる。

総合解説：高凝集・低結合は、変更の局所化や理解容易性の向上につながる代表的な設計方針である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0096

1-4 システム開発技術 > 要件定義・設計 | 難易度：応用

利用者自身も画面操作を経験しないと要求を具体化しにくい新規サービスを開発する。初期段階の進め方として最も適切なものはどれか。

ア：簡易なプロトタイプを作り、利用者のフィードバックを得ながら要求を具体化する。

イ：利用者への確認を行わず、最初の要望だけで最終設計まで固定する。

ウ：本番用インフラを全て構築してから要求を確認する。

エ：要求が曖昧な部分を全て削除して開発対象外にする。

答え・解説

正答：ア

ア：不確実性が高いUIや操作要求では、早期に試作品を示して学習サイクルを回すことが有効である。

イ：要求理解のずれを終盤まで残す危険が高い。

ウ：要求検証より先に大きな投資を行うため手戻りが大きくなる。

エ：必要な価値まで失う可能性があり、要求具体化の方法にならない。

総合解説：不確実性が高いUIや操作要求では、早期に試作品を示して学習サイクルを回すことが有効である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0097

1-4 システム開発技術 > 要件定義・設計 | 難易度：標準

プレゼンテーション層、業務ロジック層、データアクセス層に分ける設計の主な狙いはどれか。

ア：全ての層が同じデータベース表を直接更新できるようにする。

イ：ネットワーク遅延を必ずゼロにする。

ウ：テストを不要にする。

エ：関心事を分離し、各層の変更影響を局所化しやすくする。

答え・解説

正答：エ

ア：責務の境界が曖昧になり依存が強くなる。

イ：論理的な層分離だけで物理遅延がゼロになるわけではない。

ウ：アーキテクチャ分離はテストの代替ではない。

エ：責務を層ごとに分離すると、UI変更やデータアクセス方式変更などの影響を限定しやすい。

総合解説：責務を層ごとに分離すると、UI変更やデータアクセス方式変更などの影響を限定しやすい。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0098

1-4 システム開発技術 > 要件定義・設計 | 難易度：基礎

多数の外部システムが利用中のAPIに新しい項目を追加する。既存利用者への影響を抑える考え方として最も適切なものはどれか。

ア：既存項目の意味を告知なく変更する。

イ：利用中の旧APIを即時停止し、全利用者に当日対応を求める。

ウ：API仕様書を廃止して実装コードだけを公開する。

エ：既存契約を壊さない形で拡張し、破壊的変更が必要ならバージョン分離や移行期間を設ける。

答え・解説

正答：エ

ア：同じインタフェースで意味を変えると既存クライアントの誤動作を招く。

イ：移行猶予がなく業務停止リスクが高い。

ウ：外部契約の理解・管理が困難になる。

エ：公開インタフェースでは互換性を管理し、利用者が移行できる仕組みを用意することが重要である。

総合解説：公開インタフェースでは互換性を管理し、利用者が移行できる仕組みを用意することが重要である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0099

1-4 システム開発技術 > 要件定義・設計 | 難易度：応用

認証方式を「ID・パスワードのみ」から「多要素認証必須」へ変更することになった。設計変更の初動として最も適切なものはどれか。

ア：ログイン画面の文言だけを変更し、他の設計は確認しない。

イ：認証要件に紐づく画面、認証コンポーネント、外部ID連携、運用手順、テストへの影響を追跡して評価する。

ウ：既存テストは過去に合格しているので再確認しない。

エ：セキュリティ要件なので業務側への説明は不要とする。

答え・解説

正答：イ

ア：認証方式そのものが変わるため影響範囲を過小評価している。

イ：要件変更は機能だけでなく外部インタフェース、運用、テスト等へ波及するため、関連成果物を横断して影響評価する必要がある。

ウ：変更後の要求への適合を確認できない。

エ：利用者手順や運用にも影響するため関係者調整が必要である。

総合解説：要件変更は機能だけでなく外部インタフェース、運用、テスト等へ波及するため、関連成果物を横断して影響評価する必要がある。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0100

1-4 システム開発技術 > 要件定義・設計 | 難易度：標準

応答性能、可用性、開発コストの三つが重要だが、全てを最大化できない。設計判断として最も適切なものはどれか。

ア：最も高価な構成を選べば全要求を満たすとみなす。

イ：要求の優先度と定量的な品質目標を明確にし、複数案の利点・欠点・コストを比較して合意する。

ウ：設計担当者の好みだけで方式を決める。

エ：非機能要件は稼働後にしか分からないので設計段階では扱わない。

答え・解説

正答：イ

ア：価格だけでは性能・可用性・適合性を保証できない。

イ：非機能要件には相互トレードオフがあるため、優先順位と測定可能な基準に基づいて意思決定する。

ウ：要求や利害関係者の合意に基づかない。

エ：性能・可用性などは設計段階から目標と検証方法を考慮すべきである。

総合解説：非機能要件には相互トレードオフがあるため、優先順位と測定可能な基準に基づいて意思決定する。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0101

1-4 システム開発技術 > テスト・品質 | 難易度：基礎

複数のモジュールを接続し、インタフェース間のデータ受渡しや呼出し順序を確認するテストはどれか。

- ア：単体テスト
- イ：受入テスト
- ウ：結合テスト
- エ：運用監査

答え・解説

正答：ウ

ア：単体テストは個々のモジュールや関数など比較的小さい単位を検証する。

イ：受入テストは利用者・発注者の要求を満たすかを確認する最終段階の検証である。

ウ：結合テストは、複数のコンポーネントを組み合わせた際のインタフェースや連携を検証する。

エ：テストレベルではなく統制・運用状況を評価する活動である。

総合解説：結合テストは、複数のコンポーネントを組み合わせた際のインタフェースや連携を検証する。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0102

1-4 システム開発技術 > テスト・品質 | 難易度：標準

入力値が1以上100以下で有効な整数である。境界値分析を重視したテスト値の組合せとして最も適切なものはどれか。

- ア：10・20・30・40・50・60（有効範囲内部に均等配置する）
- イ：0・1・2・99・100・101（下限・上限の直前、境界、直後を含める）
- ウ：1・25・50・75・100・200（境界値と内部値を混在させる）
- エ：2・3・4・97・98・99（有効範囲の境界そのものを外す）

答え・解説

正答：イ

ア：範囲内部に偏り、境界付近を十分に確認できない。

イ：有効範囲の直前・境界・直後を確認することで、比較演算子など境界付近の欠陥を発見しやすい。

ウ：1と100は含むが境界直前・直後を系統的に確認していない。

エ：境界値1と100及び無効側を含まず、境界値分析として不十分である。

総合解説：有効範囲の直前・境界・直後を確認することで、比較演算子など境界付近の欠陥を発見しやすい。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0103

1-4 システム開発技術 > テスト・品質 | 難易度：標準

同値分割法の説明として最も適切なものはどれか。

- ア：同じ処理結果が期待される入力領域を同値クラスに分け、各クラスから代表値を選ぶ。
- イ：ソースコードの全分岐を最低1回実行する。
- ウ：障害発生時刻の前後だけを重点的に試す。
- エ：全ての入力値を漏れなく総当たりする。

答え・解説

正答：ア

ア：入力領域を同じ扱いが期待できる集合に分け、全値を試さず代表値で効率的に確認する技法である。

イ：これはホワイトボックスの分岐網羅に関する考え方である。

ウ：同値分割の定義ではない。

エ：同値分割は代表値を選んで効率化する技法である。

総合解説：入力領域を同じ扱いが期待できる集合に分け、全値を試さず代表値で効率的に確認する技法である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0104

1-4 システム開発技術 > テスト・品質 | 難易度：基礎

割引可否が「会員区分」「購入金額」「キャンペーン期間」の組合せで決まる。テストケース設計に最も適した技法はどれか。

- ア：デシジョンテーブル
- イ：命令網羅だけを用いる。
- ウ：負荷テストだけを行う。
- エ：ランダムに一つのケースだけ選ぶ。

答え・解説

正答：ア

ア：複数条件の組合せと、それに対応する処理・結果を体系的に整理するのに適している。

イ：内部コードの実行状況は確認できても業務条件の組合せ漏れを直接防げない。

ウ：性能評価であり、条件組合せの論理を検証する目的とは異なる。

エ：組合せ網羅性を確保できない。

総合解説：複数条件の組合せと、それに対応する処理・結果を体系的に整理するのに適している。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0105

1-4 システム開発技術 > テスト・品質 | 難易度：標準

分岐網羅（ブランチカバレッジ）の説明として最も適切なものはどれか。

ア：各判定結果の真・偽など、全ての分岐方向を少なくとも1回は実行する。

イ：全ての実行可能な入力値を試す。

ウ：全ての命令を1回実行すれば、分岐の真偽を問わない。

エ：要件書の全ページをレビューする。

答え・解説

正答：ア

ア：分岐網羅は、各判定の結果として生じる分岐方向を網羅する基準である。

イ：入力全数の総当たりを意味せず、分岐方向の実行を対象とする。

ウ：それは命令網羅に近く、分岐網羅より弱い。

エ：静的レビューでありコードカバレッジ基準ではない。

総合解説：分岐網羅は、各判定の結果として生じる分岐方向を網羅する基準である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0106

1-4 システム開発技術 > テスト・品質 | 難易度：応用

不具合修正後に回帰テストを実施する主な目的はどれか。

ア：修正箇所の仕様を削除する。

イ：修正によって既存の正常機能へ意図しない影響が生じていないことを確認する。

ウ：新規機能だけを確認し既存機能は対象外にする。

エ：本番障害が起きるまでテストを停止する。

答え・解説

正答：イ

ア：テストの目的ではない。

イ：回帰テストは変更後に既存機能が壊れていないかを再確認するために行う。

ウ：回帰テストは既存機能への副作用を確認する。

エ：品質リスクを増やし、回帰テストの考え方に反する。

総合解説：回帰テストは変更後に既存機能が壊れていないかを再確認するために行う。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0107

1-4 システム開発技術 > テスト・品質 | 難易度：標準

業務部門が新システムの受入判定を行う。最も重視すべき観点はどれか。

ア：合意した業務要件・受入基準を満たし、想定業務を実行できるか。

イ：開発者のコーディング規約だけに適合しているか。

ウ：使用したプログラミング言語が担当者の好みと一致するか。

エ：テスト件数が多いほど自動的に合格とするか。

答え・解説

正答：ア

ア：受入テストは発注者・利用者の要求と受入基準への適合を確認する。

イ：内部品質の一部であり、業務受入の中心的基準ではない。

ウ：受入要件と無関係な主観基準である。

エ：件数ではなく要求・基準への適合で判断すべきである。

総合解説：受入テストは発注者・利用者の要求と受入基準への適合を確認する。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0108

1-4 システム開発技術 > テスト・品質 | 難易度：基礎

テストで検出した欠陥件数だけを品質判断に使う問題点として最も適切なものはどれか。

ア：欠陥は一件でもあれば必ず全システムを廃棄すべきだからである。

イ：品質は測定できないので指標を一切使うべきでないからである。

ウ：欠陥件数は常に性能だけを表す指標だからである。

エ：規模、重大度、テスト量などの文脈を無視すると、件数だけでは品質を比較・判断しにくい。

答え・解説

正答：エ

ア：欠陥の重大度や修正可能性を無視した極端な判断である。

イ：複数の適切な指標による測定・評価は有効である。

ウ：欠陥件数は性能だけに限定されない。

エ：欠陥数は重要だが、規模当たり密度、重大度、残存リスク、テスト進捗などと併せて解釈する必要がある。

総合解説：欠陥数は重要だが、規模当たり密度、重大度、残存リスク、テスト進捗などと併せて解釈する必要がある。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0109

1-4 システム開発技術 > テスト・品質 | 難易度：応用

V字モデルの考え方で、要求定義に対する妥当性確認と特に対応が深いテストはどれか。

ア：単体テスト

イ：受入テスト

ウ：結合テスト

エ：静的コード解析だけ

答え・解説

正答：イ

ア：単体テストは詳細設計や実装単位の検証との対応が深い。

イ：上流で定義した利用者・業務要求を、後工程の受入テストで確認するという対応関係を持つ。

ウ：結合テストは主にモジュール間・コンポーネント間の設計との対応が深い。

エ：要求定義の妥当性確認を代替するものではない。

総合解説：上流で定義した利用者・業務要求を、後工程の受入テストで確認するという対応関係を持つ。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0110

1-4 システム開発技術 > テスト・品質 | 難易度：標準

リリース判定に用いるテスト終了基準として最も適切なものはどれか。

ア：予定日になった時点で結果に関係なく終了する。

イ：重要要件のテスト完了、重大欠陥の残存状況、必要なカバレッジや性能基準などを事前定義し、残存リスクを含めて判定する。

ウ：テストケースを1件でも実行したら終了する。

エ：欠陥件数が前日より減っただけで終了する。

答え・解説

正答：イ

ア：品質状況を無視した日程だけの判定である。

イ：終了基準は件数だけでなく、要求の重要度、欠陥重大度、カバレッジ、非機能基準、残存リスク等を組み合わせる。

ウ：必要な検証範囲を満たさない。

エ：絶対的な品質基準や重大度を考慮できない。

総合解説：終了基準は件数だけでなく、要求の重要度、欠陥重大度、カバレッジ、非機能基準、残存リスク等を組み合わせる。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0111

1-4 システム開発技術 > 開発手法・アジャイル・DevOps | 難易度：基礎

ウォーターフォール型開発の一般的な特徴として最も適切なものはどれか。

ア：工程を段階的に進め、各工程の成果物や完了条件を明確にして次工程へ移る。

イ：要求・設計・実装を短い反復で常に同時進行し、計画を一切持たない。

ウ：本番へ毎日自動デプロイすることを必須とする。

エ：利用者との合意を行わず開発者だけで仕様を決める。

答え・解説

正答：ア

ア：予測型では工程と成果物を前もって定義し、段階的に進めることが基本となる。

イ：反復型の特徴を誇張した説明でありウォーターフォールの一般像ではない。

ウ：デプロイ頻度はウォーターフォールの定義要件ではない。

エ：開発モデルに関係なく適切な要求合意は必要である。

総合解説：予測型では工程と成果物を前もって定義し、段階的に進めることが基本となる。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0112

1-4 システム開発技術 > 開発手法・アジャイル・DevOps | 難易度：標準

漸増型開発の説明として最も適切なものはどれか。

ア：完成するまで成果物を一切利用者に見せない。

イ：全機能を一度に実装し、最後に一括テストすることを意味する。

ウ：利用可能な機能の一部を先に提供し、その後の増分で機能範囲を拡張する。

エ：障害が起きた部分だけを繰り返し修正する手法である。

答え・解説

正答：ウ

ア：段階的な価値提供という漸増型の利点を活かしていない。

イ：一括型の説明である。

ウ：漸増型は成果物を増分ごとに追加し、利用可能な価値を段階的に拡張する。

エ：漸増型の定義ではない。

総合解説：漸増型は成果物を増分ごとに追加し、利用可能な価値を段階的に拡張する。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0113

1-4 システム開発技術 > 開発手法・アジャイル・DevOps | 難易度：標準

アジャイル開発の考え方として最も適切なものはどれか。

ア：文書は一切作成してはならない。

イ：計画を持ちつつも、顧客との協働や実際に動く成果物から得た学習に基づいて変化へ適応する。

ウ：変更要求は全て拒否し、最初の計画を絶対視する。

エ：顧客との対話を減らし、契約書だけで全判断を行う。

答え・解説

正答：イ

ア：必要な文書まで否定する考え方ではない。

イ：アジャイルは計画を否定するのではなく、短いフィードバックを通じて変化へ適応し価値提供を高める。

ウ：変化への適応という考え方に反する。

エ：顧客との協働を重視する考え方と逆である。

総合解説：アジャイルは計画を否定するのではなく、短いフィードバックを通じて変化へ適応し価値提供を高める。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0114

1-4 システム開発技術 > 開発手法・アジャイル・DevOps | 難易度：基礎

スクラムにおけるプロダクトバックログの説明として最も適切なものはどれか。

ア：プロダクトに必要と考えられる作業・機能・改善等を優先順位を付けて管理する、変化し得る一覧である。

イ：一度作成したら変更してはならない固定仕様書である。

ウ：完了済み作業だけを記録する会計帳簿である。

エ：障害ログだけを保管する一覧である。

答え・解説

正答：ア

ア：プロダクトバックログは価値や必要性に応じて継続的に精緻化・優先順位付けされる作業の一覧である。

イ：学習や状況変化に応じて更新され得る。

ウ：将来の作業候補を管理する役割とは異なる。

エ：障害以外の機能・改善・技術的作業なども含み得る。

総合解説：プロダクトバックログは価値や必要性に応じて継続的に精緻化・優先順位付けされる作業の一覧である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0115

1-4 システム開発技術 > 開発手法・アジャイル・DevOps | 難易度：標準

スプリントレトロスペクティブの主な目的はどれか。

ア：完成した機能を利用者へ正式検収してもらうことだけを目的とする。

イ：チームの進め方、協働、ツール、プロセスを振り返り、次のスプリントで改善する行動を決める。

ウ：次期予算の財務監査だけを行う。

エ：メンバー個人の責任を追及し処罰を決める。

答え・解説

正答：イ

ア：成果物の確認とは役割が異なる。

イ：レトロスペクティブはプロセスとチームの改善に焦点を当てる継続的改善の機会である。

ウ：監査活動ではない。

エ：学習と改善を妨げ、イベントの目的に反する。

総合解説：レトロスペクティブはプロセスとチームの改善に焦点を当てる継続的改善の機会である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0116

1-4 システム開発技術 > 開発手法・アジャイル・DevOps | 難易度：応用

継続的インテグレーション（CI）の説明として最も適切なものはどれか。

ア：本番障害が起きるまで変更を統合しない。

イ：全てのテストを手作業に限定する。

ウ：開発者の変更を頻繁に共有リポジトリへ統合し、自動ビルドや自動テストで統合不具合を早期検出する。

エ：ソースコードを各開発者のPCだけで管理する。

答え・解説

正答：ウ

ア：統合を遅らせるため問題発見が遅くなる。

イ：CIでは自動ビルド・自動テストが重要な要素となる。

ウ：CIは小さな変更を頻繁に統合し、自動検証によって問題を早く見つけるプラクティスである。

エ：共有・統合を妨げる。

総合解説：CIは小さな変更を頻繁に統合し、自動検証によって問題を早く見つけるプラクティスである。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0117

1-4 システム開発技術 > 開発手法・アジャイル・DevOps | 難易度：標準

「変更を自動テスト済みで本番リリース可能な状態まで継続的に準備するが、本番投入の最終判断は人が行う」方式として最も近いものはどれか。

- ア：継続的デプロイ
- イ：ビッグバン移行
- ウ：継続的デリバリー
- エ：ウォームサイト

答え・解説

正答：ウ

ア：継続的デプロイでは必要な自動検証を通過した変更を本番へ自動投入する考え方が中心である。
イ：一括切替の移行方式であり継続的なリリース準備ではない。
ウ：継続的デリバリーは常にリリース可能な状態を維持しつつ、本番リリース自体は承認操作を残す運用が一般的である。
エ：災害復旧サイトの構成概念である。

総合解説：継続的デリバリーは常にリリース可能な状態を維持しつつ、本番リリース自体は承認操作を残す運用が一般的である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0118

1-4 システム開発技術 > 開発手法・アジャイル・DevOps | 難易度：基礎

Infrastructure as Code (IaC) を採用する主な効果として最も適切なものはどれか。

- ア：サーバの設定変更履歴を残さないようにする。
- イ：全ての障害を物理的に発生なくする。
- ウ：インフラ構成をコードとして版管理・レビュー・自動適用し、環境再現性や変更追跡性を高める。
- エ：本番環境だけを手作業で変更し、コードとの差異を許容する。

答え・解説

正答：ウ

ア：版管理・追跡性という利点に反する。
イ：IaCは障害ゼロを保証しない。
ウ：IaCは手作業の設定を宣言・コード化し、再現性、自動化、監査可能性を高める。
エ：構成ドリフトを生みIaCの目的に反する。

総合解説：IaCは手作業の設定を宣言・コード化し、再現性、自動化、監査可能性を高める。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0119

1-4 システム開発技術 > 開発手法・アジャイル・DevOps | 難易度：応用

DevOps導入の説明として最も適切なものはどれか。

ア：運用部門への引渡し後は開発部門が一切関与しないよう壁を強化する。

イ：開発と運用が共通目標を持ち、自動化、共有、計測、迅速なフィードバックを通じて価値提供と安定運用を両立させる。

ウ：デプロイ回数を増やすことだけを唯一の目的とする。

エ：全ての承認・監視・テストを廃止する。

答え・解説

正答：イ

ア：サイロ化を強め、DevOpsの協働思想に反する。

イ：DevOpsはツールだけでなく、組織間協働と継続的フィードバックを含む実践である。

ウ：速度だけでなく品質・信頼性・フィードバック等も重要である。

エ：統制や品質保証をなくすことではない。

総合解説：DevOpsはツールだけでなく、組織間協働と継続的フィードバックを含む実践である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0120

1-4 システム開発技術 > 開発手法・アジャイル・DevOps | 難易度：標準

法令で固定された締切と厳格な監査証跡が必要な基盤部分と、利用者ニーズが変化しやすいUI部分を含むシステムを開発する。最も合理的な考え方はどれか。

ア：全領域に同一手法を機械的に適用し、事情を考慮しない。

イ：UI部分の変更が多いので監査証跡を全て廃止する。

ウ：部分ごとの不確実性・規制・依存関係を評価し、予測型と反復・適応型を組み合わせる。

エ：基盤部分の締切が固定なので利用者フィードバックを一切受けない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不確実性や規制要求の違いを無視する。

イ：規制・統制要求を満たせない。

ウ：一つの手法に固定せず、成果物の性質や制約に応じて開発アプローチをテラリングすることが合理的である。

エ：変化の大きい領域での学習機会を失う。

総合解説：一つの手法に固定せず、成果物の性質や制約に応じて開発アプローチをテラリングすることが合理的である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0121

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > システム戦略・システム企画 | 難易度：基礎

IT戦略を策定する際の基本的な考え方として最も適切なものはどれか。

ア：経営目標・事業課題から必要な情報システム能力を導き、投資の優先順位を整合させる。

イ：最新技術を採用すること自体を最上位目標にする。

ウ：各部門が互いに無関係なシステムを個別最適で導入する。

エ：経営計画を確認せずIT部門だけで優先順位を決める。

答え・解説

正答：ア

ア：ITは目的ではなく事業価値を実現する手段であり、経営戦略との整合が重要である。

イ：技術導入が経営価値へ結び付くとは限らない。

ウ：全社最適やデータ連携を損なう可能性が高い。

エ：事業優先度との不整合を招く。

総合解説：ITは目的ではなく事業価値を実現する手段であり、経営戦略との整合が重要である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0122

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > システム戦略・システム企画 | 難易度：標準

エンタープライズアーキテクチャ（EA）を用いる主な目的として最も適切なものはどれか。

ア：業務、データ、アプリケーション、技術などを全体として可視化し、現状から目標状態への統合的な変革を支援する。

イ：個別プログラムの変数名を統一することだけを目的とする。

ウ：単一サーバのCPUクロックを最大化する。

エ：監査証拠を全て削除して業務を高速化する。

答え・解説

正答：ア

ア：EAは企業全体の構造を複数の観点で整理し、個別最適を避けながら変革計画を整合させる。

イ：EAは企業・組織全体の構造を扱う。

ウ：技術要素の局所性能だけを扱う概念ではない。

エ：統制をなくすことを目的としない。

総合解説：EAは企業全体の構造を複数の観点で整理し、個別最適を避けながら変革計画を整合させる。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0123

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > システム戦略・システム企画 | 難易度：標準

As-Is/To-Be分析の説明として最も適切なものはどれか。

ア：現状の業務・システムと目標状態を整理し、その差分から必要な施策を検討する。

イ：過去の障害だけを集計して将来像を定めない。

ウ：目標状態だけを描き、現状の制約や資産を無視する。

エ：現状をそのまま永久に維持することを前提にする。

答え・解説

正答：ア

ア：現状と目標を明示することで、ギャップを埋める施策や優先度を具体化しやすくなる。

イ：To-Beを設定しないためギャップ分析にならない。

ウ：移行可能性や課題を評価できない。

エ：変革施策の検討にならない。

総合解説：現状と目標を明示することで、ギャップを埋める施策や優先度を具体化しやすくなる。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0124

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > システム戦略・システム企画 | 難易度：基礎

将来のキャッシュフローを現在価値に割り引いて投資案を評価する指標として最も適切なものはどれか。

ア：MTBF

イ：RTO

ウ：NPV（正味現在価値）

エ：稼働率だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：信頼性指標であり投資キャッシュフロー評価ではない。

イ：復旧目標時間であり投資採算指標ではない。

ウ：NPVは将来キャッシュフローを割引率で現在価値に換算し、初期投資等との差額で投資価値を評価する。

エ：運用品質の一指標であり、資金の時間価値を含む投資評価指標ではない。

総合解説：NPVは将来キャッシュフローを割引率で現在価値に換算し、初期投資等との差額で投資価値を評価する。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0125

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > システム戦略・システム企画 | 難易度：標準

情報システム調達でRFPを提示する主な目的はどれか。

ア：契約締結後にだけ社内で保管し、ベンダには見せない。

イ：完成したソースコードを納品するための文書である。

ウ：発注側の背景、要求、条件、評価観点などを候補ベンダへ示し、提案を比較できるようにする。

エ：障害の一次対応手順だけを記載する。

答え・解説

正答：ウ

ア：提案を依頼する文書なので候補ベンダへ提示する。

イ：成果物納品書ではない。

ウ：RFPは提案依頼書であり、調達条件と要求を明確にして複数提案を比較・評価する基礎となる。

エ：運用手順書に限定されるものではない。

総合解説：RFPは提案依頼書であり、調達条件と要求を明確にして複数提案を比較・評価する基礎となる。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0126

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > システム戦略・システム企画 | 難易度：応用

新システム企画のフィージビリティ評価として最も適切なものはどれか。

ア：技術面、経済面、運用面、法令・期間など複数の制約から実現可能性を評価する。

イ：技術的に作れるなら費用や運用負荷を無視して必ず実施する。

ウ：最安価格の案だけを自動的に採用する。

エ：現行システムの課題を調べずベンダの宣伝資料だけで判断する。

答え・解説

正答：ア

ア：システム化の可否は技術だけでなく費用対効果、組織能力、法規制、スケジュール等を総合的に評価する必要がある。

イ：事業としての実現可能性を十分に評価していない。

ウ：価値、リスク、品質、実現性を無視している。

エ：客観的な企画評価にならない。

総合解説：システム化の可否は技術だけでなく費用対効果、組織能力、法規制、スケジュール等を総合的に評価する必要がある。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0127

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > システム戦略・システム企画 | 難易度：標準
業務システムの運用を外部委託するか検討している。判断として最も適切なものはどれか。

- ア：提示価格が安ければ契約条件を確認せず委託する。
- イ：コストだけでなく、戦略的重要性、社内能力、機密性、ベンダ依存、サービス品質、契約・退出条件まで評価する。
- ウ：外部委託すれば発注者の管理責任は全て消滅する。
- エ：一度委託したら将来の契約終了や移行を検討しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：隠れたコストやサービス・依存リスクを評価できない。
- イ：ソーシング判断では総コストとともに戦略性・リスク・継続性・ガバナンスを考慮する。
- ウ：委託してもサービス管理やリスク管理の責任は残る。
- エ：ロックインや事業継続リスクを高める。

総合解説：ソーシング判断では総コストとともに戦略性・リスク・継続性・ガバナンスを考慮する。
この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0128

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > システム戦略・システム企画 | 難易度：基礎
BPRの考え方として最も適切なものはどれか。

- ア：紙の申請書を同じ手順のままPDFにすることだけを目的とする。
- イ：既存の無駄な承認工程を全て維持することを前提にする。
- ウ：既存業務の前提やプロセス自体を抜本的に見直し、顧客価値や生産性の大幅な改善を目指す。
- エ：情報システム部門だけで業務目的を無視して実施する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：単純な電子化であり抜本的なプロセス再設計とは限らない。
- イ：現状前提を見直すBPRと逆である。
- ウ：BPRは現状手順をそのまま電子化するのではなく、業務プロセスを根本から再設計する考え方である。
- エ：業務価値の改善が中心であり部門横断の検討が必要である。

総合解説：BPRは現状手順をそのまま電子化するのではなく、業務プロセスを根本から再設計する考え方である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0129

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > システム戦略・システム企画 | 難易度：応用

複数のIT投資候補から実施案件を選定する方法として最も適切なものはどれか。

ア：提案順に無条件で採択する。

イ：期待効果、戦略適合性、コスト、リスク、依存関係、資源制約を共通基準で比較し、全体最適で優先順位を付ける。

ウ：最も開発規模が大きい案件を必ず最優先にする。

エ：部門ごとに独立判断し、共通資源の競合を考慮しない。

答え・解説

正答：イ

ア：価値や制約を比較していない。

イ：案件単体の魅力だけでなく、組織全体の戦略と資源配分を考えたポートフォリオ評価が必要である。

ウ：規模と価値は一致しない。

エ：全体最適を損なう。

総合解説：案件単体の魅力だけでなく、組織全体の戦略と資源配分を考えたポートフォリオ評価が必要である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0130

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > システム戦略・システム企画 | 難易度：標準

新CRM導入の投資目的を「顧客離反率の低下」とした。導入後の評価設計として最も適切なものはどれか。

ア：システムが予定日に稼働した時点で便益は実現したとみなす。

イ：ログイン画面の色だけを評価指標にする。

ウ：導入前の基準値と目標値、測定期間、影響要因を定め、利用定着や業務変更と併せて離反率への効果を追跡する。

エ：導入後は効果測定を行わず次案件へ移る。

答え・解説

正答：ウ

ア：稼働は成果物完成であり事業効果を直接保証しない。

イ：投資目的である離反率との関係が弱い。

ウ：システム導入完了ではなく、事業上の便益が実現したかを測定可能な指標で追跡することが重要である。

エ：投資の妥当性や改善機会を検証できない。

総合解説：システム導入完了ではなく、事業上の便益が実現したかを測定可能な指標で追跡することが重要である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0131

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > サービスマネジメント・システム監査 | 難易度：基礎

多数の利用者で同じ障害が繰り返し発生した。インシデント管理とは別に問題管理で重視する活動はどれか。

- ア：全ての問い合わせを未記録のまま電話だけで処理する。
- イ：根本原因を分析し、再発防止策や既知エラーとしての管理を行う。
- ウ：利用者へのサービス復旧を意図的に遅らせる。
- エ：原因分析を禁止し毎回同じ暫定対応だけを行う。

答え・解説

正答：イ

ア：傾向分析や追跡ができず管理として不適切である。

イ：問題管理はインシデントの根本原因と再発防止に焦点を当てる。

ウ：インシデント対応では早期復旧も重要であり、問題管理はそれを妨げるものではない。

エ：再発防止につながらない。

総合解説：問題管理はインシデントの根本原因と再発防止に焦点を当てる。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0132

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > サービスマネジメント・システム監査 | 難易度：標準

本番環境の変更管理で最も適切な考え方はどれか。

- ア：緊急でない変更も全て無承認で直接本番へ反映する。
- イ：変更のリスク・影響・優先度を評価し、必要な承認、計画、テスト、実施、結果確認を統制する。
- ウ：変更履歴を残さず担当者の記憶だけに頼る。
- エ：変更は危険なので改善目的の変更も永久に禁止する。

答え・解説

正答：イ

ア：変更失敗や追跡不能のリスクを高める。

イ：変更管理は有益な変更を適切なリスクで実施し、予期しないサービス影響を抑えるための統制である。

ウ：追跡性や監査性を損なう。

エ：価値提供と改善を妨げる。

総合解説：変更管理は有益な変更を適切なリスクで実施し、予期しないサービス影響を抑えるための統制である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0133

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > サービスマネジメント・システム監査 | 難易度：標準

SLAの説明として最も適切なものはどれか。

ア：開発者個人の勤務時間だけを定める就業規則である。

イ：サービス提供者と顧客の間で、対象サービスやサービスレベル目標、責任などを合意したもの。

ウ：ソースコードの変数名規則だけを定める文書である。

エ：障害が一度でも発生すれば契約が自動終了する制度である。

答え・解説

正答：イ

ア：サービス提供者と顧客間のサービス合意ではない。

イ：SLAはサービスの期待水準を測定可能な形で合意し、評価の基準とする。

ウ：コーディング規約とは異なる。

エ：SLAの一般的定義ではない。

総合解説：SLAはサービスの期待水準を測定可能な形で合意し、評価の基準とする。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0134

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > サービスマネジメント・システム監査 | 難易度：基礎

あるサービスの月間提供予定時間が720時間で、サービス停止が合計7.2時間だった。可用性として最も近いものはどれか。

ア：90.0%（停止率を10%とみなす）

イ：98.0%（停止率を2%とみなす）

ウ：99.9%（停止時間を0.72時間相当とみなす）

エ：99.0%（ $712.8 \div 720$ で求める）

答え・解説

正答：エ

ア：停止7.2時間は予定時間の10%ではなく1%である。

イ：停止率を2%とする計算ではない。

ウ：99.9%なら許容停止は約0.72時間であり今回より短い。

エ：可用性は（提供予定時間 - 停止時間）÷ 提供予定時間で求め、 $712.8 \div 720 = 0.99$ である。

総合解説：可用性は（提供予定時間 - 停止時間）÷ 提供予定時間で求め、 $712.8 \div 720 = 0.99$ である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0135

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > サービスマネジメント・システム監査 | 難易度：標準

CPU使用率が繁忙期に継続して90%を超え、応答遅延が予想される。キャパシティ管理として最も適切な対応はどれか。

ア：性能データを削除して問題を見えなくする。

イ：障害が発生するまで一切分析しない。

ウ：利用者数を理由なく半減させることだけを唯一の対応とする。

エ：需要予測と性能傾向を分析し、必要な増強・最適化をサービス目標とコストのバランスで計画する。

答え・解説

正答：エ

ア：容量不足のリスクを増やす。

イ：予防的な容量計画にならない。

ウ：業務要求や他の改善策を評価していない。

エ：キャパシティ管理は現在・将来の需要に対し、必要な性能と容量を適切なコストで確保することを目指す。

総合解説：キャパシティ管理は現在・将来の需要に対し、必要な性能と容量を適切なコストで確保することを目指す。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0136

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > サービスマネジメント・システム監査 | 難易度：応用

サービス構成情報を管理する主な目的として最も適切なものはどれか。

ア：構成情報を担当者ごとに別々の非共有メモで保持する。

イ：実環境との差異を意図的に放置する。

ウ：構成アイテムとその関係を把握し、障害・変更の影響分析やサービス管理の意思決定を支援する。

エ：構成アイテム間の関係を記録しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：一貫性と信頼性を損なう。

イ：誤った影響分析につながる。

ウ：サーバ、アプリ、ネットワーク等の関係を可視化することで、変更影響や障害範囲を追跡しやすくなる。

エ：サービスへの影響を評価しにくくなる。

総合解説：サーバ、アプリ、ネットワーク等の関係を可視化することで、変更影響や障害範囲を追跡しやすくなる。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0137

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > サービスマネジメント・システム監査 | 難易度：標準

システム監査の客観性を確保するための対応として最も適切なものはどれか。

ア：自分が承認した統制だけを自分で監査し、問題なしと結論付ける。

イ：監査対象部門に不都合な事実は報告しない。

ウ：監査範囲を対象部門の希望だけで自由に縮小する。

エ：監査対象業務の実施責任から独立した立場で評価し、利害関係による判断の偏りを抑える。

答え・解説

正答：エ

ア：自己レビューとなり客観性が損なわれる。

イ：監査の公正性・信頼性に反する。

ウ：リスクに基づく適切な監査範囲設定にならない。

エ：監査人の独立性・客観性は、監査結果の信頼性を確保する基本条件である。

総合解説：監査人の独立性・客観性は、監査結果の信頼性を確保する基本条件である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0138

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > サービスマネジメント・システム監査 | 難易度：基礎

アクセス権棚卸しの統制が実施されているか監査する。監査証拠として最も適切なものはどれか。

ア：担当者の「いつも実施している」という口頭説明だけで結論を出す。

イ：監査対象と無関係な売上資料だけを見る。

ウ：証拠を取得せず印象だけで評価する。

エ：棚卸し記録、承認履歴、実際の権限設定のサンプル確認など、複数の客観的証拠を突き合わせる。

答え・解説

正答：エ

ア：単独の口頭説明だけでは証拠の信頼性・十分性が弱い。

イ：監査目的との関連性がない。

ウ：監査結論を裏付けられない。

エ：証拠は監査目的に対して関連性・信頼性があり、結論を支える十分性が必要である。

総合解説：証拠は監査目的に対して関連性・信頼性があり、結論を支える十分性が必要である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0139

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > サービスマネジメント・システム監査 | 難易度：応用

監査で「退職者アカウントが1か月残存していた」事実を確認した。監査報告として最も適切なものはどれか。

ア：担当者を非難する感想だけを書き、証拠や基準は示さない。

イ：不備を隠して「問題なし」とだけ記載する。

ウ：確認した事実、基準との差異、リスク・影響を明確にし、必要に応じて実行可能な改善提言を示す。

エ：監査人が直接アカウントを削除し、それを監査結果の代わりにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：客観的な監査報告にならない。

イ：監査結果の信頼性を損なう。

ウ：監査報告は根拠ある事実と評価を明確にし、改善に資する内容とする。

エ：監査と業務執行の役割を混同している。

総合解説：監査報告は根拠ある事実と評価を明確にし、改善に資する内容とする。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0140

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > サービスマネジメント・システム監査 | 難易度：標準

監査報告後のフォローアップとして最も適切な活動はどれか。

ア：監査報告を出した時点で以後の状況を一切確認しない。

イ：監査証拠を全て破棄して改善状況を追えなくする。

ウ：改善措置の責任を監査人が全て引き受けて業務運営する。

エ：改善計画の実施状況と、指摘したリスクが適切に低減されたかを確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：重大な未改善リスクが残る可能性がある。

イ：追跡性を損なう。

ウ：監査人の独立性を損なう可能性がある。

エ：フォローアップは監査指摘への対応が実行され、期待した改善が得られたかを確認する。

総合解説：フォローアップは監査指摘への対応が実行され、期待した改善が得られたかを確認する。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0141

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > 企業活動・法務・標準化 | 難易度：基礎
固定費が300万円、売上高に対する変動費率が60%である。損益分岐点売上高はいくらか。
ア：750万円（固定費÷限界利益率0.40で求める）
イ：180万円（固定費に変動費率0.60を掛ける）
ウ：500万円（固定費を変動費率0.60で割る）
エ：1,200万円（固定費を限界利益率で割った値を過大評価する）

答え・解説

正答：ア

ア：限界利益率は $1 - 0.60 = 0.40$ なので、損益分岐点売上高は $300\text{万円} \div 0.40 = 750\text{万円}$ である。
イ：固定費に変動費率を掛けただけで、損益分岐点売上高ではない。
ウ：500万円では限界利益が200万円となり固定費300万円を回収できない。
エ：固定費を変動費率で割る計算ではない。

総合解説：限界利益率は $1 - 0.60 = 0.40$ なので、損益分岐点売上高は $300\text{万円} \div 0.40 = 750\text{万円}$ である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0142

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > 企業活動・法務・標準化 | 難易度：標準
機能別組織の一般的な特徴として最も適切なものはどれか。
ア：製品・地域など事業単位ごとに全機能を独立配置することが必須である。
イ：一人の従業員が必ず二人の上司へ報告する構造である。
ウ：部門という概念を完全に廃止する組織である。
エ：営業、開発、経理など専門機能ごとに人員を集約し、専門性や規模の効率を高めやすい。

答え・解説

正答：エ

ア：事業部制の説明に近い。
イ：マトリックス組織の特徴に近い。
ウ：機能別組織の説明ではない。
エ：機能別組織は専門分野ごとの知識蓄積や効率化に向く一方、部門間調整が課題になり得る。
総合解説：機能別組織は専門分野ごとの知識蓄積や効率化に向く一方、部門間調整が課題になり得る。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0143

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > 企業活動・法務・標準化 | 難易度：標準

顧客情報を取得してサービス提供に利用する事業者の対応として、個人情報保護の観点から最も適切なものはどれか。

ア：利用目的を一切定めず、将来考え得る全目的に自由利用する。

イ：利用目的をできる限り特定し、その範囲を踏まえて個人情報を適正に取り扱う。

ウ：取得した個人情報は安全管理措置を講じなくてよい。

エ：本人が公開した情報なら常に法律上の個人情報ではなくなる。

答え・解説

正答：イ

ア：目的による取扱いの限定がなく適切でない。

イ：個人情報保護法の基本では、利用目的の特定・通知公表等を行い、その目的との関係で適正に取り扱うことが求められる。

ウ：個人データ等には必要かつ適切な安全管理措置が求められる。

エ：公開情報でも特定個人を識別できる等の要件を満たせば個人情報となり得る。

総合解説：個人情報保護法の基本では、利用目的の特定・通知公表等を行い、その目的との関係で適正に取り扱うことが求められる。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0144

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > 企業活動・法務・標準化 | 難易度：基礎

日本の著作権について最も適切な説明はどれか。

ア：著作権は特許庁への出願が受理された時点で初めて発生する。

イ：著作物を公表しない限り著作権は一切発生しない。

ウ：著作物を創作した時点で著作権は自動的に発生し、権利取得のための登録を必要としない。

エ：著作権は法人だけが取得でき、個人には発生しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：著作権は産業財産権と異なり、権利取得のための出願・登録を要しない。

イ：創作時に発生し、公表は権利発生要件ではない。

ウ：文化庁は、著作権は著作物の創作時に自動的に発生し、権利取得のための手続を要しないと説明している。

エ：個人の創作者にも著作権は発生し得る。

総合解説：文化庁は、著作権は著作物の創作時に自動的に発生し、権利取得のための手続を要しないと説明している。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0145

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > 企業活動・法務・標準化 | 難易度：標準

事業者が商品・サービスを他社のものと区別するために使用する名称やマークを主に保護する制度はどれか。

- ア：特許権
- イ：実用新案権
- ウ：著作権
- エ：商標権

答え・解説

正答：エ

ア：特許は発明を主な保護対象とする。

イ：実用新案は物品の形状・構造・組合せに係る考案を主な対象とする。

ウ：創作的な表現を保護する権利であり、商品・サービスの識別標識を主目的とする制度ではない。

エ：商標は商品・サービスの出所を識別する標識であり、商標制度によって保護される。

総合解説：商標は商品・サービスの出所を識別する標識であり、商標制度によって保護される。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0146

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > 企業活動・法務・標準化 | 難易度：応用

不正競争防止法上の営業秘密として保護を受けるための三要件の組合せとして正しいものはどれか。

- ア：公開性・無償性・永続性
- イ：新規性・進歩性・産業上の利用可能性
- ウ：独創性・芸術性・公表性
- エ：秘密管理性・有用性・非公知性

答え・解説

正答：エ

ア：いずれも営業秘密の法定三要件ではない。

イ：特許要件に関係する概念であり営業秘密の三要件ではない。

ウ：著作物等の別概念が混在しており営業秘密要件ではない。

エ：経済産業省は営業秘密の三要件を「秘密管理性」「有用性」「非公知性」と示している。

総合解説：経済産業省は営業秘密の三要件を「秘密管理性」「有用性」「非公知性」と示している。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0147

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > 企業活動・法務・標準化 | 難易度：標準

2026年1月1日から施行され、旧「下請法」の法律名・制度を改正した法律の通称として適切なものはどれか。

ア：個人情報保護法

イ：著作権法

ウ：電子帳簿保存法

エ：取適法（中小受託取引適正化法）

答え・解説

正答：エ

ア：個人情報の取扱いを規律する別法である。

イ：著作物に関する権利を規律する別法である。

ウ：国税関係帳簿書類の電子保存等を扱う別法である。

エ：2026年1月1日から、改正後の法律は「中小受託取引適正化法（取適法）」として施行されている。

総合解説：2026年1月1日から、改正後の法律は「中小受託取引適正化法（取適法）」として施行されている。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0148

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > 企業活動・法務・標準化 | 難易度：基礎

市場で広く普及した結果、事実上の標準として定着した仕様を表す用語はどれか。

ア：デジュールスタンダード

イ：プロトタイプ

ウ：ベンチマーク

エ：デファクトスタンダード

答え・解説

正答：エ

ア：公的な標準化機関などが定める標準を指す。

イ：試作物であり標準化の種類ではない。

ウ：比較評価の基準・測定を指し、市場普及による標準の分類ではない。

エ：公的な標準化機関による制定ではなく、市場競争や普及によって事実上の標準となったものをデファクトスタンダードという。

総合解説：公的な標準化機関による制定ではなく、市場競争や普及によって事実上の標準となったものをデファクトスタンダードという。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0149

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > 企業活動・法務・標準化 | 難易度：応用

ISO/IEC 27001に関する説明として最も適切なものはどれか。

ア：データベースのSQL文法だけを定義する規格である。

イ：TCPの通信手順だけを定めるインターネット標準である。

ウ：個人のプログラミング技能を認定する試験制度である。

エ：情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）を確立・実施・維持・継続的改善するための要求事項を示す規格である。

答え・解説

正答：エ

ア：ISMSの要求事項を扱う規格でありSQL文法規格ではない。

イ：TCP仕様とは別物である。

ウ：組織のマネジメントシステムに関する規格である。

エ：ISO/IEC 27001は組織のISMSに関する要求事項を定める代表的な国際規格である。

総合解説：ISO/IEC 27001は組織のISMSに関する要求事項を定める代表的な国際規格である。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01

0150

1-5 ストラテジ・マネジメント・法務 > 企業活動・法務・標準化 | 難易度：標準

企業のコンプライアンスを実効的にする取組として最も適切なものはどれか。

ア：法令・社内規程を周知するだけでなく、責任体制、教育、相談・通報、モニタリング、違反時の是正まで継続的に運用する。

イ：規程を作成した後は従業員へ知らせない。

ウ：違反を発見しても業績が高ければ記録しない。

エ：コンプライアンスは法務部門だけの責任とし、経営者や各部門は関与しない。

答え・解説

正答：ア

ア：実効性のあるコンプライアンスは、規程の存在だけでなく、組織的な運用・監視・改善によって確保する。

イ：規程が実務に浸透せず統制として機能しにくい。

ウ：一貫した統制・是正を損なう。

エ：全社的なガバナンスとして機能しにくい。

総合解説：実効性のあるコンプライアンスは、規程の存在だけでなく、組織的な運用・監視・改善によって確保する。この論点では、用語の暗記だけでなく、実務上どの場面で適用するかまで区別できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-10-01